

2023年度
事業報告書

社会福祉法人 光友会

— 基本理念 —

障害者には、同世代の健常市民と同様の「当たり前の生活を営む権利」、すなわちあらゆる面での「完全参加と平等」の権利がある。これを保障するためには、全ての面での条件整備が必要である。

— 3つの目標 —

- 1 福祉施設にありがちな「隔離と管理」から脱皮するため、職員、利用者、地域住民の意識改革に努めるとともに地域福祉の核機能を果たしてゆく。
- 2 障害者への差別と偏見を除去し、障害者の学習権・労働権・生活権を保障してゆく。
- 3 「平和は福祉の基盤」「福祉は平和のシンボル」であることを身近なところから裏付けし、これを支える福祉運動を推し進めてゆく。

— 5つの展開 —

- 1 本部役員は安定した財政と柔軟な経営、適切なニーズに対応出来るよう、積極的にその任務を果たす。
- 2 全職員はたゆまぬ研鑽とサービス技術・技能の向上に努め、各事業所内外の期待に応えるとともに、「地域貢献」「困りごとの解決」のために率先して取り組む。
- 3 各事業所利用者は障害に甘えることなく主体的な自主行動を展開し、また、地域在住障害者と共同して生活改善の運動を開花、充実させてゆく。
- 4 行政機関に働きかけ、公私の役割分担を明らかにしながら民間事業所の特色が発揮できるための法的援助体制を確立してゆく。
- 5 障害者差別解消法の施行を受け、一般就労の拡大、地域での「くらし」の充実、ボランティア活動の土壌を育む。

目次

I	2023年度 事業報告作成にあたり	1
II	事業所別事業報告	
	法人本部	3
	神奈川ワークショップ	8
	ライフ湘南	12
	寒川事業所	16
	収益事業部	20
	(ハートフルプロダクツ・光友会事業サポートサービスセンター)	
	湘南希望の郷	22
	湘南あっとほーむ・ひだまり	25
	総合相談支援センター	28
	在宅支援センター	34
	藤沢サンライズ	38
	障がい福祉センターひかり一時預かり	41
	太陽の家運営管理室・体育館	43
	太陽の家しいの実学園	46
	太陽の家藤の実学園	50
	放課後等デイサービス太陽の家	53
	磯子地域福祉部	56
III	その他	
	事故報告・リスクマネジメント報告について	63

2023 年度 事業報告にあたって

理事長 五十嵐 紀子

2023 年度の事業が終わり、次年度の活動が始まろうとしている状況の下、先ず第一に報告したいのは、何と云っても診療所の開所に向けた準備の年となった事です。

一年前から発達障害の方達の為の日中活動支援事業「リエール」を開設しましたが、これに伴い発達障害児・者に対する医療対応が必要と位置付けていました。

当法人に於いては、当時の身体障害者療護施設「湘南希望の郷」が発足する時点から診療所の開所を目指していましたが、施設の中に診療所機能は持ったもののスペースとして診療所の形態は持っていませんでした。これを発達障害の事業所の開設を機に是非開所をと考えるに至り、この地域に於いて、クリニックを開所しておられた先生（医師）の御理解をいただき、開所を目指す事となりました。

保健所の許可等、大変な手続きを経て 2024 年 7 月から精神科・内科の診療科目で、おそごうこころのクリニックとして開所出来る運びとなりました。

その間、いろいろと大変な作業と遭遇しましたが、経験豊かな職員チームで何とか乗り切る事が出来ました。

次は、イキイキチャレンジ活動についてです。

湘南希望の郷の看護師が中心となり「みんなに優しい排泄ケア」と位置付け、なかなか表に出てこない排泄課題を取り上げた事は全役職員から注目を浴び、高く評価されました。又、太陽の家のデイサービスの「地域クリーン活動と農業体験を通した支援向上活動」。これについても地域の清掃活動や中庭のスペースを使って、さつま芋を植えて立派に収穫した芋を皆で分け合って食べたりと他のデイサービスでは見られない作業を通して支援の向上を目指した事が皆から評価されました。

コロナが 2 類から 5 類へと変わり終息に近づいた事もあり、久しぶりの発表型のイキイキチャレンジ発表大会も大いに盛り上がりました。

私共光友会の職員は求職者の面接時にも、自由で明るい支援活動が評価されており、日頃より感謝に堪えない所です。

その他、2023 年度は久しぶりの大幅な賃金改正にも着手し、良き職員の支援活動に応えたいと考えています。

何卒、関係者の皆さんの変わらぬ御支援を心からお願いする次第です。

2023 年度 法人本部事業報告

1 年度総括

2023 年度は、経営協アクションプラン 2025 に従い法人の経営理念、経営方針に沿って経営、地域社会、福祉人材の 3 つの基本姿勢を中心に業務に取り組みました。

法人内では 2023 年 5 月よりコロナウイルス感染症の分類が 2 類から 5 類に引き下げられたものの引き続き感染防止に努め、場所や時間等を選ばないリモートでの会議や研修等を実施することのメリットについて、ウィズコロナでの対応を内部で体感・共有ができました。

そのような状況の中、主要業務である理事会、評議員会及び法人内の主要な会議が円滑に行えるように、対面・書面・リモートを組み合わせながら適正に遂行する事ができ、各事業所の執行状況等についても会計業務委託業者と連携し、しっかりと計画的な予算の執行管理ができました。

また、社会福祉法人運営に係わる、職員の最低賃金の改正や、障害福祉サービス等報酬改定に伴う新たな処遇改善加算手当の制度改正など迅速に判断できるよう必要な情報の提供に努めました。

2 事業報告

(1) 経営に対する基本姿勢

- ① 理事会、評議員会で承認が必要な議案や報告については、上程し全て承認をいただきました。また、コロナウイルス感染症の分類が 2 類から 5 類に引き下げられたものの引き続き感染防止に努め、ウィズコロナの対応として会議の開催を対面・書面・リモートを組み合わせながらの運営に努めました。
- ② 前年同様、月次決算による拠点区分別分析を毎月部長会議で行うとともに、上半期、決算時期に前年対比で 黒字の事業所、赤字の事業所において、自己分析をして説明する場を設け、財務状況を身近に感じられるような取り組みを行いました。
- ③ コンプライアンス（法令等遵守）の徹底に取り組むため、ハラスメント研修及び、虐待防止研修を行い、職員に対し社会的ルールの遵守の普及、啓発に努めました。また、最低賃金の改正に伴う給与等の改正及び障害福祉サービス等改定に伴う新たな処遇改善手当制度の給料への配分等のルール化など、社会情勢の変化に対応するため、見直しを図りました。

(2) 地域社会に対する基本姿勢

- ① 光友会の魅力等を積極的に情報発信するため、ホームページの毎月の更新に努め更新件数 249 件（月平均 24.7 件）と新たに「出張相談」のタブを設置するな

ど、積極的なPRを行い、年間アクセス総数 41,000 件を超え、前年度比+14%となりました。また、法人プロフィールの更新を行い、事業所ごとに写真を掲載した 12 ページの冊子として作製し、今後見学者や学校等に配付して、法人の魅力をアピールしていきたい。

(3) 福祉人材に対する基本姿勢

- ① ホームページ求人ページ内の「370 人の挑戦者たち」は、前回の更新から 3 年が経過していることから、66 人を新たに追加し、現在の職員総数である「400 人の挑戦者たち」に変更を行い、アクセス数は、前年度 9,507 件から 13,280 件と大幅に増加いたしました。昨年度より変更した問い合わせフォームについては、「採用希望者向け見学」に 13 件、「新卒求人」に 4 件の問い合わせがあり、4 人の採用に繋がりました。

3 法人研修及び行事実施状況

	研修・行事名	備考
4 月	新任職員研修	32 人（新卒者 10 人、常勤登用者 22 人）
	経営方針研修	年度経営方針については、課長級以上が対象（理事長講話は 5 月までに視聴）
5 月	光友会事業推進協議会総会	推進協代議員総会 4 年ぶり対面開催 出席者：60 人（うち委任状の出席 41 人）
6 月	階層別コミュニケーション研修	対象：1 級から課長職（オンライン研修） 受講者：178 人受講
9 月	希望寄席	9 月 15 日（金）湘南台市民シアター 来場者数 518 人
11 月	ふくし村まつり	11 月 18 日（土）ワークショップ 食堂：太鼓演奏 フラダンス 大抽選会・スピードくじ 駐車場：模擬店・キッチン 地域交流ホームかわうそ：作品展示（文化祭）
12 月	人権・法令遵守 ハラスメント研修	対象：全職員（非常勤職員も含む） 動画視聴、アンケート調査 受講者：363 人受講
1 月	チャリティーコンサート	1 月 26 日（金）市民会館 大ホール 来場者数 410 人
1 月 ～ 3 月	イキイキチャレンジ活動 発表大会	発表者・審査員のみ参加する形式 4 年ぶり 対面で発表（6 事業所参加） その動画をそ の他職員が視聴し審査 視聴人数：214 人

4 2023年度資格取得褒賞対象者

資格名称等	取得者数	事業所
介護福祉士	4人	湘南希望の郷、湘南あっとほーむ・ひだまり、藤の実学園
社会福祉士	1人	藤の実学園
保育士	1人	放課後等デイサービス太陽の家
二級ファイナンシャルプランナー技能士	1人	いそご地域活動ホームいぶき
介護支援専門員	1人	湘南希望の郷
計		8人

5 2023年度評議員会・理事会

(1) 評議員会

開催	主な議案
2023年6月24日	【出席者数：評議員10人 理事9人 監事1人】 2022年度事業報告について 2022年度計算書類・財産目録の承認について 2023年度予算の補正について 理事9名及び監事2名の選任について
2023年10月6日	【出席者数：評議員10人 理事7人 監事0人】 定款の一部変更について（決議の省略による）
2024年1月27日	【出席者数：評議員9人 理事8人 監事2人】 顧問及び相談役の設置について 診療所事業の実施について 酒類の製造及び販売事業の実施について 2023年度の予算の補正について
2024年3月23日	【出席者数：評議員10人 理事9人 監事2人】 2023年度予算の補正について 2024年度事業計画（案）及び予算（案）のについて 定款の一部変更について

(2) 理事会

開催	主な議案
2023年6月6日	【出席者数：理事8人 監事2人】 2022年度事業報告及び計算書類並びに財産目録の承認について 2023年度予算の補正について 評議員会に提案する理事・監事候補者について 評議員選任・解任委員会委員の選任について 2023年度第1回評議員会の招集について 理事長及び業務執行理事の職務執行状況について（報告）
2023年6月24日	【出席者数：理事9人 監事2人】 理事長及び業務執行理事の選任について
2023年9月8日	【出席者数：理事9人 監事1人】 定款の一部変更について いそご地域活動ホームいぶき給食業務委託業者選考（プロポーザル方式）について 第2回評議員会の決議の省略について 常勤職員給与規程の一部変更について 光友会サポートサービスセンター職員給与規程の一部変更について 理事長及び業務執行理事の職務執行状況について（報告）
2024年1月17日	【出席者数：理事9人 監事2人】 顧問及び相談役の設置について 診療所事業の実施について 酒類の製造及び販売事業の実施について 2023年度予算の補正について 2023年度第3回評議員会の招集について 経理規程の一部変更について 理事長及び業務執行理事の職務執行状況について（報告）
2024年3月15日	【出席者数：理事9人 監事2人】 2023年度予算の補正について 2024年度事業計画（案）及び予算（案）について 2024年度組織改正に伴う施設の長他の重要な職員の選解任について

	定款の一部変更について 役員賠償責任保険加入による保険料の法人負担の承認について 2023年度第4回評議員会の招集について 経理規程の一部変更について 常勤職員給与規程別表1の改正について 理事長及び業務執行理事の職務執行状況について（報告）
--	--

(3) 評議員・理事・監事（2024年4月1日現在）

評議員： 坂根隆志 竹村雅夫 大島正寿 木原純子 倉持泰雄

杉本和雅 長淵晃二 金子貞廣 小澤幸喜 二見隆江

理 事： 五十嵐紀子 落合文雄 栗原ちゆき 吉田淳基 一杉好一

永井洋一、松井正志 片山睦彦 森直人

監 事： 高橋理一郎 宇久田進治

2023年度 神奈川ワークショップ事業報告

1 年度総括

今年度も基本理念を毎朝職員全員で唱和し、福祉サービスの基本を認識し、意識を高めるとともに法人の方針等を職員全員に伝え徹底を図りました。就労支援サービスに基づき、支援学校から実習生7人、神奈川県社会福祉協議会より教員免許実習生10人名、就労アセスメント者4人を受入れ、支援学校1年生・2年生、在宅障害者団体等の見学20件の見学対応を行い、福祉サービス現場に対する理解の向上に努めました。

今年度一般就労において、就労者を輩出することが出来ませんでした。今後の課題でもあります。

収益事業部と連携し、ワイン用ブドウ「メイブ」を栽培し「横浜ワイナリー」協力のもとワインを製造することができました。

2 実施事業

(1) 就労移行支援事業

(2) 就労継続支援A型事業

(3) 就労継続支援B型(従たる事業所：かわうそ工房・ひかり治療院を含む)

(・本体：定員40人 登録59人 ・かわうそ工房：定員10人 登録9人
・ひかり治療院 定員10人 登録6人) 合計74人

3 事業報告

(1) 支援に対する基本姿勢

- ① 利用者に対して、出来るだけ自己選択・決定を尊重し意向に沿う作業環境を本人相談し、必要に応じてご家族と相談しサービス提供を行う事が出来ました。
- ② 計画に入れた実習先の開拓については今後の課題となりました。
- ③ 虐待防止委員会を月1回実施し、全職員(常勤職員・非常勤職員)対象に虐待に対するセルフチェックを2回実施、外部委員を招き虐待防止研修を1回実施し、職員の意識向上に努めました。
- ④ 提案箱への意見はありませんでした。「利用者アンケート」を1回実施し、利用者からいただいたご意見を今後、反映させる取り組みを行いました。
- ⑤ 防災訓練については2回実施し、防災備蓄品、器具の点検を定期的に行いました。

(2) 地域社会に対する基本姿勢

- ① 実習・見学等の受入を積極的に行う事が出来ました。(見学者 20件 80人)

地域でのお祭りやイベントに 27 件参加する事が出来ました。

藤沢市役所ロビー販売、わいわい市、湘南スーパーニールズ、スーパーSUZUKIYA での販売は、継続して行う事が出来ました。

- ② かろうそ農園の収穫体験では、就労福祉部のみならず法人内の別の事業所(リエール、ケアセンター)と連携し、多くの利用者と共に実施出来ました。
- ③ ホームページでの情報発信は年間 5 件、月 1 件以上の発信に留まりました。
- ④ 近隣の耕作放棄地などを借り上げ「畑」、「田圃」、「ブドウ圃場」など(合計 4ヶ所 700 坪)を確保、広げる事が出来ました
- ⑤ 地域の農家組合と連携を深めるために定期的に行われる用水路泥上げ、田圃脇の草刈りに職員・利用者が、参加しました。また、同日開催の水利組合総会には、五十嵐理事長、一杉統括が参加し、地域交流を図りました。

(3) 福祉人材に対する基本姿勢

- ① 毎日の朝礼等で、法人の事業経営方針(基本理念等)を唱和する取り組みを行う一方、年度当初に部門統括から目的意識の共有を行い、事業運営の円滑化を図かる取り組みを行いました。
- ② 今年度入職の職員に対して施設内各部門及び法人内他施設の研修実施を行いました。一方、サービス管理責任者補足研修に 1 名派遣し、職員の養成を行うことができました。
- ③ SDS(自発的学習)の推進を進めてきましたが、職員の資格取得には至りませんでした。今後目標を共有する形で継続して取り組んでいきます。
- ④ ヒヤリハットに関して職員一人 2 件以上/月の目標達成には至りませんでした。次年度は目標達成に向け、意識の高揚など工夫を行っていきます。
- ⑤ 職員のコンプライアンスへの認識を高めるために、2022 年度から部門統括が、実施している課長・課長補佐への研修の場を活用し就業規則の理解をはじめとする各種ルールへの認識を高めると共に、「ハラスメントアンケート」の作成など次年度につなげる取り組みを行うことができました。
- ⑥ 感染予防対策として毎朝、共用部分を次亜塩素酸で消毒を法人本部職員と連携し実施しました。合わせて公用車内の消毒を実施しました。ワークショップ建物内も業者による除菌・抗菌を行い、給食の 2 部制を継続し感染予防に努めました。
- ⑦ 原材料の価格高騰もあり商品の価格を見直す一方、コスト意識を高め無駄を極力省くための管理運営にあたりました。

※生産活動実績

部 門	売 上	達成率	部 門	売 上	達成率
オフセット印刷	53,380 千円	97%	点字印刷	20,290 千円	101%

製パン	8,558 千円	117%	軽作業	5,945 千円	186%
農作業	422 千円	84%	テーププリント	5,984 千円	120%
かわうそ工房	4,355 千円	69%	ひかり治療院	3,355 千円	134%

4 数値実績

2024年3月31日現在

	就労移行事業	就労支援A型事業	就労支援B型事業
利用定員	6 人	10 人	60 人
利用登録者数	1 人	10 人	74 人
稼働者延数	261 人	2,028 人	14,582 人
稼働延日数	247 日	247 日	247 日
稼働率	16%	82%	98%
職員数	常勤 10 人（管理者・サービス管理責任者含む） 非常勤 16 人		
常勤換算数	25.1 人		

5 年間行事（法人全体研修・行事等を除く）

月	研修等	行事等
4 月	部門統括による課長職研修	食事会（キッチンカー）
5 月		家族懇談会
6 月	部門統括による課長職研修	田植体験
7 月		
8 月	部門統括による課長職研修	
9 月		
10 月	部門統括による課長職研修	稲刈り体験
11 月		避難訓練
12 月	部門統括による課長職研修	収穫祭
1 月	虐待研修	
2 月		
3 月	部門統括による課長職研修	避難訓練

6 主な会議等（法人全体会議を除く）

会議名等	開催日	備考
就労福祉部合同運営会議	毎月 1 回	総合施設長・部門統括・部長 ・課長・課長補佐
就労福祉部部長会議	毎月 1 回	部門統括・部長
職員会議・喫食会議	毎月 1 回	常勤・非常勤職員

個別支援計画書 モニタリング会議	毎月 1 回	常勤・非常勤職員
虐待防止委員会	毎月 1 回	常勤・非常勤職員
施設内研修	年 2 回	常勤・非常勤職員
SBMカンファレンス	毎月 1 回	部長、課長、課長補、会計担当

7 ヒヤリハット・事故報告

年度	ヒヤリハットレポート件数	事故件数
2023 年度	125 件	1 件
2022 年度	123 件	1 件
2021 年度	141 件	0 件

2023 年度 ライフ湘南事業報告

1 年度総括

昨年同様、利用者・職員の主体性を大切にした事業所運営を目指し取り組みました。新型コロナウイルス感染症の規制も 2 類から 5 類に緩和され地域のバザーや催し物等が徐々に復活し始めた 1 年でした。地域交流や普及啓発、地域福祉の活性化の取り組みも普通の状況に戻りつつあります。今年も新たな顧客開拓を展開する事ができ来期工賃アップにつながる足掛かりが出来ました。また、一般企業・各学校、他の就労支援機関と協力・連携を行ってきた成果が出て年度内に就職者 1 名を輩出し、目標の 1 人以上を達成する事が出来ました。

2 実施事業

- (1) 就労移行支援事業
- (2) 就労継続支援 B 型事業

3 事業報告

(1) 支援に対する基本姿勢

- ① 毎朝礼時に基本理念・3つの目標・5つの展開の唱和を継続し、業務への意識付けを強化したことにより、職員の利用者に接する姿勢が、より柔軟に対応出来るようになりました。
- ② 虐待防止委員会の月 1 回実施により、「虐待防止規程」「運営要領」を再度周知し、「職員セルフチェック」と同様な「業務の振り返りチェック」を行う事により、利用者に対する言動・行動の見直しを常に行い支援に生かしました。
- ③ 支援学校進路担当者との今後の卒業生の進路については対面にて打合せを行いました。又、ハローワークチーム支援連絡会に参加し他機関との連携強化を図りました。
- ④ 豆腐部門で味の変化に拘った「ゴマ入り豆腐ドーナツ (7 個入り)」を新商品として開発し、新年度に提供します。
- ⑤ 就労支援事業所として 1 人以上の一般企業への就職者を目標に「就労支援プログラム」を毎月 4 回実施した甲斐もあり 1 人の就職者を輩出する事ができました。
- ⑥ 8 月及び 2 月に市内中学校の体験実習を実施しました。(製パン部門・喫茶部門)
- ⑦ 各種イベントの取り組みは、5 月に「里山公園春の公園まつり」、6 月に「太陽の家まつり」、7 月に「慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス七夕祭」「小出コミセンまつり」、10 月に「かりん秋祭り」「湘南大庭ふるさとまつり」、11 月に「湘南看護専門学校バザー」、12 月に「藤沢ふれあいフェスタ 2023(フラダンスチーム オルオール出席)」、2 月に「湘南大庭ふれあいボーリング交流会」に参加しました。
- ⑧ 新型コロナウイルス感染症等により季節に合わせた行事や余暇支援等は年 6 回の

内1回(お花見)は中止になりました。又、家族会との連携については、5月に4年ぶりの家族懇談会を行い、家族の方々との情報交換を実施しました。

- ⑨ かわうそ農園第2圃場にワイン用ブドウ(メイヴ)の除草作業等が思うように出来なかった事を踏まえ、来年度から担当職員を置き、農福推進室の指導の下作業を行い、工賃アップにつなげていきます。

(2) 地域社会に対する基本姿勢

- ① 地域での拡販の取り組みとしては、東邦チタニウム株式会社内パン等販売が6月から、慶応義塾大学看護医療学部内パン等販売が11月からそれぞれスタートしました。又、慶育病院実行委員会より「慶育祭」出店の依頼があり11月に出店しました。2月に慶応義塾大学看護医療学部より藤沢宿弁当63個の注文を頂きました。
- ② 湘南大庭地区社会福祉協議会生活改善部会(6月・2月)・ポイ捨て無くし隊(6月・9月・12月・2月)・イオン藤沢店イエローシート店頭活動(4月・5月・7月・9月・10月・11月・12月・1月)・湘南大庭青少年指導員地区会街頭パトロール(8月・10月・11月)に参加しました。
- ③ 地域住人の生活ニーズに寄り添った活動として、清掃部門で近隣住宅の除草を年間3件実施しました。又、地域福祉のアンテナ機能を果たすため、近隣の民生・児童委員などの見学受入れを募集しましたが、新型コロナウイルス感染症の影響もあつたせいか、見学受入れが出来ませんでした。
- ④ 法人ホームページにて年間23件の事業所情報を更新し、地域社会に対してライフ湘南の取り組みが理解される様、情報発信を行いました。又、地域サークルへの会議室・食堂の貸し出しは、年間26件となりました。利用された方々がライフ湘南の商品をご購入いただくなど、良好な関係を作る事ができました。
- ⑤ 慶応義塾大学SFC・看護医療学部、東邦チタニウム(株)、自治会関係(茅ヶ崎B地区・湘南大庭等)、学校関係者との連携により、オードブル・藤沢宿弁当の販売につなげることができました。(オードブル400個/回、藤沢宿弁当586個/年)

(3) 福祉人材に対する基本姿勢

- ① ヒヤリハットの提出は、約45件/月(年間合計535件)であり改善数は535件でした。職員の気づきから事業所全体の就労サービスの向上へと繋げることが出来ました。
- ② 新型コロナウイルスの影響も少しあり各種大学・専門学校等、合計2校から実習生(社会福祉士・保育士・教員)を延2人受け入れました。
- ③ 全職員(非常勤職員・KSS職員含む)と年1回の面接を実施しました。業務の振り返りアンケートについては年2回実施し、情報共有に努め職員の意識改革を行いました。
- ④ 今年度は事業所独自の研修を実施しなかった為、来年度早々に「虐待防止研修」を実施致します。(常勤・非常勤職員参加)

- ⑤ 常勤職員は1回/年の外部研修を受講し、その内容を報告書及び職員会議内において報告を行いました。(実施率50%)
- ⑥ 食品部門、清掃部門、軽作業部門とも衛生管理・在庫管理の上から作業場清掃を毎週実施しました。
- ⑦ 今年度も部門統括による課長職研修を実施(1回/2か月)し、法人による指針をもとに「ハラスメントの種類と予防」について議論しアンケート等作成し、職員への徹底を図りました。

※生産活動実績

部門	売上	目標達成率	部門	売上	目標達成率
軽作業	3,159千円	102%	喫茶	13,706千円	88%
清掃	8,097千円	86%	製パン	7,661千円	134%
豆腐	3,402千円	105%	製麺	4,512千円	101%

4 数値実績

2024年3月31日現在

	就労移行支援事業	就労継続支援(B型)事業
利用者定員	6人	54人
利用者登録数	3人	66人
利用者延べ数	885人	13,254人
一日平均利用者数	3人	53人
稼働率(%)	60.0%	98.0%
稼働延日数	249日	
職員数	常勤:12人(管理者サビ管含む) 非常勤:9人	
常勤換算数	18.4人	

5 年間行事(法人全体研修・行事等を除く)

月	研修等	行事等
4月		お花見(※)
5月	令和5年度農福連携スタートアップミーティング	家族懇談会
6月	特定技能指導員講習&視覚障害・就労支援者講習会	
7月	農福連携コーディネーター養成講座 サービス管理責任者等研修(補足研修)	七夕
8月		暑気払い
9月	サービス管理責任者等研修(基礎研修)	希望寄席券売
10月		赤い羽根共同募金 防災訓練①
12月		忘年会

1月		利用者旅行(注1) チャリティーコンサート券売 イキイキチャレンジ発表大会 エントリー
2月		節分、防災訓練②
3月		ひな祭り 利用者旅行(注1)

※お花見については新型コロナウイルスの影響により中止としました。

(注1):オンライン旅行を実施しました。

6 主な会議等（法人全体会議を除く）

会議名等	開催日	参加対象者
就労福祉部部長会議	毎月2回	部門統括・部長
就労福祉部合同運営会議	毎月1回	理事長・部門統括・部長・課長・課長補佐
職員会議・喫食会議	毎月1回	常勤職員
個別支援計画モニタリング会議	毎月1回	常勤職員
支援会議	随時	
虐待防止委員会	毎月1回	指定常勤職員
ハローワークチーム支援会議	毎月1回	指定常勤職員
部門統括による部内課長研修	隔月1回	課長・課長補佐

7 ヒヤリハット・事故報告

年度	ヒヤリハットレポート件数	事故件数
2023年度	535件	0件
2022年度	304件	0件
2021年度	293件	0件

2023 年度 寒川事業所事業報告

1 年度総括

中期経営計画 2025 における経営方針寒川事業所の収益構造の改善に向け、「食」のサービスにとどまらず、施設外就労・地域イベント活動の充足から利用者の確保に繋げ、就労支援事業収益・訓練等給付費収益共に増収増益を計上できました。開所以来初の黒字経営を達成し「健全経営」の基盤を構築することができ、生産収益増から平均工賃の向上にも繋がりました。(35,000 円/月)。年度内の一般就労輩出者はありませんでしたが、施設外就労を通じ 2024 年 5 月からの就職者 1 人が決定しました。

また、寒川町自立支援協議会への参加を通じ、町役場・相談事業所・医療機関・当事者家族等、地域に根差した交流を更に深め、寒川町の障害福祉事業所の窓口的存在を担いました。

2 実施事業

(1) 就労継続支援 B 型事業

3 事業報告

(1) 支援に対する基本姿勢

- ① 施設外就労を積極的に活用し作業環境の整備に取り組んだことで、利用者ニーズに応えた多様なサービス（食堂接客・調理補助・簡易作業等）を提供することができました。サービスの選択肢の拡充から更なる利用者の増員を図り、日々の平均利用人数は 16.5 人となりました。目標値 17 人までには至りませんでした前年度比 104%を達成しました。
- ② 地域農園・地域スーパーと連携を深め施設外就労の充足に努め継続的な「労働の場」として定着させることができました。新規開拓として新たな地域農園と連携し施設外就労に向けた準備を継続しています。
- ③ 一般就労を希望する利用者については、施設外就労やハローワーク面接会に参加し就労準備性を高め自立へのステップとしました。年度内の就職者輩出はありませんでしたが 2024 年 5 月からの就職者 1 名が決定しました。
- ④ 虐待防止(身体拘束禁止)委員会を設置し利用者の意思表示・決定へのプロセスに積極的な関わりを持ち、権利侵害のない本人主体の支援を遂行しました。
- ⑤ 暑気払い・忘年会・日帰り旅行(八景島シーパラダイス)・自主イベント企画等、各種イベントを実施しサービスの充実化に繋がりました。

(2) 地域社会に対する基本姿勢

- ① 寒川町自立支援協議会に参画。地域の福祉情勢・福祉ニーズを把握し寒川町事業所連絡会にて情報を共有しました。また、寒川町相談基幹センター、隣接する相談事業所、町役場とは緊密な関係を築き、より一層地域に根差した活動を推進しました。
- ② 寒川町北口新仲通り商店会の販売促進企画(夏まつり・産業まつり・スタンプラリー等)に積極的に参加するとともに、各種イベントの企画運営にも携わり地域商店会の活性化に努めました。
- ③ 地域イベントの参加にあたっては、衛生面・安全面の確保を行ったうえで参加しました。特に町主催の企画や地域スーパーマーケットの地場野菜促進イベントについては新たに「寒川マルシェ実行委員会」と連携し積極的に参加、関係性を深め収益増に大きく結びました。また、イベントを自主企画し開催することで、地域の活性化・サービスの向上に繋げることができました。活動状況については、ホームページに掲載し地域認知度向上に努めました。
- ④ ブドウの育成へ収益事業部と連携・参画し、除草・収穫等、一部の作業に携わることはできましたが、日程調整(同行職員の確保等)が難しく作業定着には至らず、生産サービスの向上には課題が残りました。

(3) 福祉人材に対する基本姿勢

- ① 就労支援に携わる福祉職員として、県主催の「業務継続計画 BCP 基礎研修」等、必要に応じた研修に参加、職場内研修（OJT）につなげ、専門性に長けた実行力のある人材育成に結びました。また、県実地指導に向け、制度・指導項目の理解浸透、法令遵守の徹底を図り適正サービスの遂行に努めました。
- ② 虐待防止委員会(身体拘束禁止)の開催、「虐待防止チェックリスト」を実施し「意思決定支援」「合理的配慮」を踏まえた適切なサービス・支援に繋げ、虐待・苦情の発生はありませんでした。ヒヤリハットレポートについては年度を通し毎月1人1件以上の報告は達成できましたが、利用者骨折による県報告事故1件、就労支援現場における事故が3件あり、再発防止対策改善を行いました。
- ③ 生産活動については、顧客のニーズ・季節感を考慮したメニュー、献立の開発を「農福連携」「地産地消」を常に視野に入れ自己研鑽しながら進め、20種類以上の地場野菜弁当の開発を行いました。年度を通じて黒字経営は達成できましたが、就労支援事業収支については原材料高騰の影響からマイナス計上となり「生産」と「支援」の事業運営のバランスに課題が残りました。

※生産活動実績

部 門	売 上	目標達成率	部 門	売 上	目標達成率
寒川まち食堂	8,033 千円	161%	まちのお弁当屋さん	11,932 千円	133%

4 数値実績

2024年3月31日現在

	就労継続支援B型
利用者定員	20人（平均利用者数16.5人/日）
利用登録数	21人
利用者延数	4,170人
稼働率	82%
稼働延日数	253日
職員数	常勤3人（管理者・サービス管理責任者含む） 非常勤5人
常勤換算数	5.8人

5 年間行事（法人全体研修・行事等を除く）

	研修等	行事等
4月	統括による課長職研修①	健康診断（利用者） やすらぎ桜まつり
5月	神奈川県指導説明会	家族懇談会 稲門会地引網
6月	食品衛生講習（文章通知） 統括による課長職研修②	寒川町新仲通り商店会総会
7月		暑気払い
8月	統括による課長職研修③	寒川町夏祭り
9月	神奈川県実地指導 業務継続計画（BCP）基礎研修	避難訓練 障害者合同就職面接会（藤沢）
10月	統括による課長職研修④	寒川ふれあい福祉フェスティバル おいもフェスティバル ハロウィン自主企画イベント 健康診断（職員）
11月	茅ヶ崎保健所細菌検査	日帰り旅行（シーパラダイス） 産業まつり
12月	統括による課長職研修⑤	忘年会 年越し海老天 かき揚げ
1月	県指定更新	
2月	統括による課長職研修⑥	茅ヶ崎・寒川事業所説明会 節分 恵方巻 寒川カレーまつり
3月		避難訓練 寒川さくらまつり 寒川町北部/南部公民館まつり

6 主な会議等（法人全体会議を除く）

会議名等	開催日	備考
就労福祉部部長会議	毎月第2火曜	部門統括・部門長・部長
就労福祉部合同運営会議	毎月第4火曜	総合施設長・部門統括・部門長・部長・課長・課長補佐
新規事業PJ事務局会議	毎月第2第4火曜	部門統括・部長・農福連携室
職員会議	毎月第3金曜	常勤職員
虐待防止(身体拘束禁止)委員会	毎月第3金曜	虐待防止委員
支援会議・モニタリング会議	毎月第3金曜	常勤職員
課長職・課長補佐研修	毎月第2火曜	部門統括・課長・課長補佐

7 ヒヤリハット・事故報告

年度	ヒヤリハット件数	事故件数
2023年度	72件	1件
2022年度	84件	0件
2021年度	98件	0件

2023 年度 収益事業部 事業報告

1 年度総括

収益事業部は、中期経営計画 2025 の初年度となる 21 年度を契機として運営方針を大幅に見直し、収益事業として「ハートフルプロダクツ」による収益性をベースにした事業展開を企画し、実現に向け準備を進めました。

主に就労福祉部との連携により、「ブドウ育成」及び「ワイン造り」に向け、除草・剪定・誘引・害虫駆除・傘かけ・収穫等、具体的な取り組みを利用者とともに行い就労サービスの向上にもつなげました。200 本の苗木から約 50 キロのブドウが収穫できワイン(試作)の生成まで至り今後の収益事業の基盤を構築することができました。

「光友会事業サポートサービスセンター(KSS)」については、65 歳以上の高齢者の人材活用により各事業所内の作業種による人手不足解消を踏まえた人材配置を進めました。

2 実施事業

(1) ハートフルプロダクツ

- ① 「ワイン用ブドウ育成」及び「ワイン造り」の挑戦(試験醸造)
- ② 法人所有空きスペースの有効活用(アパート及び貸し室)
- ③ 独自事業

就労生産事業の市場開拓・営業範囲拡充拡大
新規商品開発、販売促進

(2) 光友会事業サポートサービスセンター(KSS)

- ① 高齢者(65 歳以上)の人材活用と人材確保

3 事業報告

(1) 支援に対する基本姿勢

- ① ブドウ圃場管理作業として、農福推進室の指導の下、「下草刈り、剪定、誘引、誘引線張り、苗の植樹、支柱設置、麻ヒモ結び」という、一連の作業を利用者支援プログラムに位置づけ、サービスの拡充に繋げることができました。
- ② 法人外ブドウ圃場における下草刈り作業の計画的受注を(株)ショーナン連携のもとライフ湘南清掃事業が実施し、利用者サービス充足に向けた基盤を構築しました。
- ③ 地域のニーズに合った市場を開拓、就労支援サービス(営業)と連携し、慶應義塾大学看護医療学部販路拡充・寒川マルシェ実行委員会連携等、販売網を拡充・拡大しました。そのことにより、就労福祉部の利用者方への工賃向上につなげることができました。

(2) 地域社会に対する基本姿勢

- ① 地域の農業放棄地の確保に向けた調査により、2022年度に借入した農地（3,500㎡）に加え、2023年度は、新たに4,100㎡を近隣農家の方から借入し、ブドウ・野菜・米の栽培面積を拡大、地域社会共生に繋げました。
- ② 神奈川ワークショップ製パン部門と連携し、沖縄黒糖を活用した新商品開発を進めましたが、黒糖の流通に課題が生じ商品化には至りませんでした。地域ニーズに合った市場を開拓し販路拡充・拡大に向け市場調査・営業活動を精力的に行いました。

(3) 福祉人材に対する基本姿勢

- ① 障害者・高齢者と共に「安心、働きがい、成長」のある働く仕組みや環境をブドウ育成からワイン造りの工程を通じて整備を進めました。ブドウの育成から収穫、醸造(委託)を行いワイン(試作)の生成まで到達することができました。初年度作業ということで葡萄樹が未だ成熟していない状態での試作ということもあり、醸造(発酵)が途中で停止するなど、試作としてはこれまでの技術的情報を確認するにとどまりました。
- ② 企画力やマネジメント力の向上など従事者の専門性を高めるための就労福祉部との企画会議を進めました。一方、人材基盤の強化を図るとともに、就労福祉部運営会議において情報共有を図りました。年度後半からは就労福祉部「新規事業プロジェクト」を立ち上げ、将来を見据えて収益事業の観点から専門的な視野を広めました。

4 数値実績

	ハートフルログカツ(ブドウ)	ハートフルログカツ(独自事業)	KSS
年間売上目標(単位千円)	25年度販売予定	賃貸借収入約32万	人件費相当
職員配置人数(予算員)	0人(就労福祉部との兼務4人)		
常勤換算数	1.5人		

5 主な会議等(法人全体会議を除く)

会議名等	開催日	備考
部長会議	月2回	毎月第2・4火曜日
就労福祉部運営会議	月1回	毎月第4火曜日
新規事業プロジェクト事務局会議	月2回	毎月第2・4火曜日

2023 年度 湘南希望の郷事業報告

1 年度総括

新型コロナウイルス感染症への対応については法的位置付けが 5 類感染症に移行後も、組織的に感染防止対策を講じることで感染拡大を防ぐことができました。そうした対応の中、4 年ぶりに集合型の利用者・家族懇談会及び郷づくり委員会を開催したことや、外出行事の一部再開等、入所施設としてのウイズコロナのあり方について検討、実施し利用者の QOL 向上に努めてまいりました。

また、「光友会イキイキチャレンジ活動」において、中堅職員を中心に「みんなに優しい排泄ケア」をテーマに、排泄ケアの見直しと紙オムツの装着方法の標準化に取り組みことで職員の育成、組織力の強化を図り、結果として「イキイキ大賞」と「KSM 大賞」の受賞につながり職場の更なる士気高揚につながりました。

課題としていた長期空床については「入居調整委員会」を機能させ、空床が発生しても間を空けることなく入所につなげることで施設入所支援の稼働率として 99%となりました。

2 実施事業

- (1) 生活介護事業
- (2) 施設入所支援事業
- (3) 短期入所事業
- (4) 障害福祉サービス等地域拠点事業所配置事業（湘南東部あんしんネット）

3 事業報告

- (1) 支援に対する基本姿勢
 - ① 感染状況、社会情勢を注視しながら、入所施設としてのウイズコロナのあり方について、必要に応じて利用者自治会、家族会と協議を重ね、外出行事について 5 件再開しました。
 - ② 通年にわたり感染防止対策を徹底し、感染を未然に防ぐとともに、陽性者発生時にはゾーニング等迅速に対応することで、感染拡大させることなく日常生活の維持に努めました。また、大掃除を年 2 回実施し、快適な施設生活を実現する衛生環境づくりに取り組みました。
 - ③ 法人の職員倫理綱領を毎週 1 回朝礼時に読み上げ、人権を尊重した基本姿勢を保持するよう努め、虐待事例無しとなりました。
 - ④ BCP（事業継続計画）について全職員対象のアンケート及び研修を実施し、その結果を踏まえて運営会議にて内容確認、協議し更新を行いました。

- ⑤ ヒヤリハットレポートを通して、KYT研修を実施し、危険予知の意識・感性の向上に努めました。

(2) 地域社会に対する基本姿勢

- ① 法人ホームページの更新は、季節行事を中心に平均して毎月 1 回以上行い、求人活動にも活用することができました。
- ② 湘南希望の郷機関紙「希望通信」を隔月発行し、施設内の様子だけでなくご覧になるご家族向けに健康に関する情報なども掲載し、紙面の充実を図りました。
- ③ 新規の朗読ボランティア及び陶芸・美術ボランティアの受け入れを感染状況を確認しながら再開し、施設の透明性、公開性の維持につなげました。

(3) 福祉人材に対する基本姿勢

- ① 中堅職員（課長補佐・チームリーダー・4 級職）に対し課長職、部長職による OJT や、「イキイキチャレンジ活動」の推進に中心となり担当させることで主体性があり多様な人と協働できる人材の育成に努めました。
- ② 常勤、非常勤職員共に年 2 回、管理職による個別面談を実施。課題を抱えている職員に対して適宜面談を実施し、普段発信しにくい意見や悩みを吸い上げる機会をつくることで、より風通しの良い職場風土づくりを目指しました。
- ③ 就業規則浸透のため、年間を通してサービスカレンダーの読み合わせを行いました。

4 数値実績

2024 年 3 月 31 日現在

	生活介護	施設入所支援	短期入所	あんしんネット
利用定員	60 人	56 人 (空床型短期入所)	4 人 (併設型)	-
利用登録者数	56 人	56 人	73 人	19 人
利用者延数	14,414 人	20,286 人	1,323 人	389 人
稼働延日数	260 日	366 日	366 日	366 日
稼働率	92%	99%	90%	-
職員配置人数	常勤 33 人（管理者・サービス管理責任者含む） 非常勤 26 人			
常勤換算数	49.9 人			

5 年間行事（法人全体研修・行事等を除く）

	研修等	行事等
4 月		健康診断・県障害者スポーツ大会
5 月		

6月	KYT 研修	ローリングバレーボール交流会（コロナ感染防止のため中止）
7月		ローリングバレー体育館練習
8月		花火大会（コロナ感染のため中止）
9月	KYT 研修	
10月		健康診断・御所見文化祭
11月		ローリングバレー体育館練習
12月	KYT 研修	クリスマス会
1月		新春お茶会
2月		節分の会
3月	KYT 研修	ローリングバレー体育館練習・ふじさわボッチャ大会

6 主な会議等

会議名等	開催日	備考
藤沢北地域福祉部部長会議	毎月第1・3木曜日	部門統括・各部長
合同部長会議	毎月最終月曜日	理事長、藤沢北地域福祉部、在宅・公益福祉部の合同会議
運営会議	毎月第4木曜日	
虐待防止委員会（身体拘束適正化委員会兼ねる）	毎月第4木曜日	
ケアプラン会議	毎月第2・4水曜日	

7 ヒヤリハット・事故報告

年度	ヒヤリハットレポート件数	事故件数
2023年度	264件	6件
2022年度	417件	9件
2021年度	483件	3件

2023年度 湘南あつとほ一む・ひだまり事業報告

1 年度総括

年度方針として掲げた「入居者それぞれが地域住民との交流の下で自立した生活を営むことが出来るホームという考えを基本とし、地域生活に主眼を置いた運営を行うこと」という方針を全職員念頭に置き、地域自治会への参画や行事に参加し、地域住民の方々との繋がりを深めながら、利用者本人の意思決定を大切にされた支援を行いました。

また、「信頼とコミュニケーション」をテーマに、暮らしやすく、働きやすい環境づくりの改善活動を推進し、利用者満足度アンケートにおいて目標とした80%以上の満足度を得ることが出来ました。課題としていた職員の人員不足については、採用活動に尽力し年度末には概ね計画通りの人員配置数となりました。

2 実施事業

- (1) 共同生活援助事業（日中サービス支援型）
- (2) 短期入所事業

3 事業報告

(1) 支援に対する基本姿勢

- ① 権利擁護担当者を中心に人権・権利擁護に関するテーマを3か月ごとに定め、ホーム内の数箇所に掲示しました。また、朝の引継ぎ時に職員で唱和することで日々の支援を各々が振り返りの機会を設けることで人権意識の向上に努めるとともに毎月実施している虐待防止委員会において虐待防止チェックを実施し、虐待事例無しとなりました。
- ② 人権・権利擁護の視点も含む利用者満足度アンケートを行ない、80%を超える満足度を得ました。また、集計結果を全職員で共有し、現況の満足度の把握とサービス向上に向けての課題抽出につなげました。
- ③ 利用者の意思表示・決定のプロセスに丁寧に関わり、職員が決めつけで物事を判断して決定することなく、権利侵害のない本人主体の支援を行いました。
- ④ 利用者がホーム内で充実した時間を過ごしていただけるよう、毎月個別支援会議を開催し、職員間で各入居者のニーズの把握・支援方法や対応方法の共有化をしたうえで日々の支援サービスを提供しました。
- ⑤ 利用者の生活の彩を考慮し、季節や時期を感じさせる草花を置くことや、誕生日会・夕涼み会・ひだまりまつり・ひなまつり・寿司パーティーなど様々な行事を実施することで入居者に楽しんでいただきました。

(2) 地域社会に対する基本姿勢

- ① 11月と3月に火災を想定した避難訓練を消防署に届け出をしたうえで実施しました。地域の行事参加については、11月に地域自治会が企画した地域清掃と防災炊き出し訓練に入居者2人・職員2人が参加、1月に長後地区にて恒例で企画されている元旦初詣歩行に利用者3人・職員3人が参加しました。また、ホームの地域向け行事として10月に「ひだまりまつり2023」を開催し、三味線演奏の催しや、焼きそば・焼き鳥・チョコフォンデュ・当てくじ等の出店をし、お子様を含め延べ60人程度の近隣の方々にご参加いただきました。
- ② ホームの様子や活動を幅広く知っていただき、信頼と協力を得ることを目的に法人のホームページ上で月1～2回「ひだまり通信」という形で情報発信を行いました。
- ③ 地域との更なる良好なネットワークの構築へ向け、可能なかぎり地域自治会や自治体の行事に参加することで利用者が地域に根付いた生活を営むことができるよう努めました。
- ④ 併設されている1床の短期入所を地域の障害を持たれた方々のグループホーム生活の体験の場として活用する計画でしたが、日々の短期入所の利用ニーズが多く、十分に体験の場として活用していただくことが難しい状況となりました。医療ケアのある方の短期入所については、延べ4人の方を受け入れました。また短期入所利用者の自宅や通所先への送迎については年34回実施しました。

(3) 福祉人材に対する基本姿勢

- ① 人事考課時に定める年間の行動変革目標について上期・下期の評価時に目標達成の度合いを上司と部下が面談して確認し合いました。また、日頃から業務の進め方や支援の在り方等について話し合いができる環境を作り、課題解決を図りました。
- ② 内部研修については外部講師を招いた虐待防止・人権擁護の研修を年1回実施しました。また、新聞記事を引用した人権擁護に関する研修を年1回実施しました。外部研修の受講についてはサービス管理責任者実践研修を1人受講し、サービス管理責任者の資格を取得することができましたが、感染症への対応や慢性的な人員不足のため、計画に沿った受講が難しい状況となりました。
- ③ 職場環境の課題として慢性的な職員の人員不足の中での運営となりましたが、ハローワークや有料のネット求人媒体等を利用して採用活動に尽力した結果、年度末には概ね計画どおりの人員配置数となりました。

4 数値実績

2024年3月31日現在

	共同生活援助事業	短期入所事業
利用定員	19人	1人
利用登録者数	19人	50人
稼働者延数	6,931人	417人

稼働延日数	366 日	366 日
稼働率	99%	113%
職員数	常勤 13 人（管理者・サービス管理責任者含む）非常勤 10 人	
常勤換算数	16.4 人	

5 年間行事（法人全体研修・行事等を除く）

月	研修等	行事等
4 月		誕生日会
5 月	人権擁護研修	
6 月		
7 月		七夕 三味線演奏会
8 月		夕涼み会（花火）
9 月		
10 月		ひだまりまつり 2023
11 月	虐待防止・人権擁護研修 火災避難訓練	地域清掃・防災炊き出し訓練
12 月	感染症拡大防止研修	クリスマス会
1 月		元旦初詣歩行
2 月		節分 寿司パーティー
3 月	深夜帯想定火災避難訓練	ひなまつり

6 主な会議等（法人全体会議を除く）

会議名等	開催日	備考
藤沢北地域福祉部部長会議	毎月第 1・3 木曜日	部門統括・各部長
合同部長会議	毎月最終月曜日	理事長、藤沢北地域福祉部、在宅・公益福祉部の合同会議
ひだまり運営会議	毎月第 3 水曜日	
虐待防止委員会	毎月第 3 水曜日	
個別支援会議	毎月第 2 水曜日	

7 ヒヤリハット・事故報告

年度	ヒヤリハットレポート件数	事故件数
2023 年度	56 件	0 件
2022 年度	77 件	3 件
2021 年度	103 件	1 件

2023 年度 総合相談支援センター事業報告

1 年度総括

総合相談支援センターは、利用者の複雑で多様化する生活課題と地域課題に対応し、「藤沢型地域包括ケアシステム」の推進に寄与するために、各々の職員が研修や各種会議に積極的に参加し、知識を深めるとともに、地域における関係者とのネットワークの幅を広げ、関係性を深めました。この取組により、関係者との日々の連携がスムーズになり、子どもから高齢者、障害者、ひきこもり、生活困窮者など世代や属性を超えた方々へのチームアプローチがより強固なものになりました。また、相談業務において多くの情報を整理して取り組むことが肝要と考え、整理整頓の年間計画を立て、それに沿って実施しました。このことにより、利用者に対して迅速で正確な情報提供ができるようになったほか、職員自身も有効な情報源へのアクセスが簡便化し、効率的で的確な相談支援業務の土台づくりを行うことができました。

2 実施事業

- (1) 北部障がい者地域相談支援事業所・藤沢障がい者生活支援センターかわうそ（以下、かわうそ）
障害者相談支援事業、計画相談支援事業・障害児相談支援事業
指定一般相談支援事業、藤沢市心のバリアフリー推進事業
- (2) 藤沢市高次脳機能障がい者相談支援事業所チャレンジⅡ（以下、チャレンジⅡ）
障害者相談支援事業
- (3) 藤沢市湘南台地域包括支援センター（以下、包括）
藤沢市包括的支援事業、介護予防ケアマネジメント事業、介護予防支援事業、介護予防教室

3 事業報告

- (1) 支援に対する基本姿勢
 - ① 湘南台文化センター2階福祉フロア（北部福祉総合相談室・外国人相談室・包括・かわうそ）及び湘南台市民センター福祉窓口、コミュニティソーシャルワーカー間で連携を図り、複雑な課題を有する相談者に対応しました。（かわうそ、包括）
 - ② 利用者の家族に対する支援を具体化するために、市北部エリアの他の地域包括支援センターと協働し、「北部在宅介護者の会」を3回実施しました。参加者アンケートの結果には、「心理的負担感が軽減された」という趣旨の記載が多数あり、この会の開催意義に合致したものでした。（包括）
 - ③ 当事者向け・家族向け日中活動を予定どおり毎月開催しました。参加者は、他の参

加者の経験談等を聴くことで、安心感を得て前向きな気持ちになる様子が伺えました。また、新規参加者の中には公民館でチラシを見て参加した方もいる等、関係機関へ直接訪問してPR活動を展開した成果が見られました。(チャレンジⅡ)

- ④ 計画相談は、新規で6名の方を受け入れました。担当者数は、目標の105名を超える106名となる予定でしたが、年度途中で亡くなった方や介護保険へ移行した方等があり、最終的には102名となりました。個々の状況に応じた適切なモニタリング期間の見直しを行い、本人が望む生活が実現できるように取り組みました。(かわうそ)
- ⑤ 利用者の居住に関する相談に関して、2名の利用者を居住サポート事業者と連携して支援しました。1名は介護保険施設への入所を検討することになり、1名は継続して住居を探しています。また、不動産事業者と協働して物件探しや引越しの支援を行いました。その他、公営住宅の入居についての相談を受けました。(かわうそ)
- ⑥ 利用者の地域移行・地域定着を目的に、様々な関係機関と連携して相談支援を行いました。精神科病院の措置入院から退院のケースは市の保健予防課や医療機関と連携して10名の方々を支援しました。また、児童相談所からの依頼で児童養護施設から地域のグループホームへの移行や、医療観察の方の支援も行いました。これらの支援を行う中で関わりのある医療機関も増え、地域の精神科クリニックからの相談依頼を受けることもありました。(かわうそ)

(2) 地域社会に対する基本姿勢

- ① 湘南台地区の民生委員児童委員や市の地区福祉窓口職員等を対象に研修講師を5回行いました。内容としてはかわうその相談支援事業や障害福祉サービスの紹介、車椅子体験など先方の依頼に合わせて対応しました。また、湘南台まつりや御所見地区健康づくり体験フェア等の地域イベントではボッチャ体験会を開催し、障害者スポーツの普及啓発に努めました。そのほか、高倉中学校の福祉体験学習では中学2年生140人に向けて、障害の理解と福祉の仕事について講義を行う等、地域団体への会議参加、研修講師受託などを通じ、地域の支援者等に対する専門的助言や、障害福祉の普及啓発活動に努めました。(かわうそ)
- ② 藤沢市心のバリアフリー講習会を年度中に3回実施し、障害理解の推進活動を行いました。第1回は「ヤングケアラーについて考える」をテーマに、神奈川県社会福祉協議会ケアラー支援専門員と当事者の会代表の方を講師にお招きしました。参加者は41人でした。第2回は「全盲のヴァイオリニスト穴澤雄介氏講演会」で、穴澤氏の生い立ちや自身の障害について、演奏を交えながらの講義に、50人が参加しました。いずれも開催後、藤沢市のホームページで動画配信も行いました。また、9月には藤沢市の防災訓練に参加し、車椅子体験会を行いました。(かわうそ)
- ③ 地域のネットワーク強化のため、毎月開催の湘南台地区の民生委員児童委員連絡協議会定例会に参加し、その日に情報提供する内容のレジュメを一人ひとりの民生

委員に手渡しすることで、顔の見える関係を強化しました。また、年5回開催された湘南台地区の協議体（湘南台いきいき会議）に参加し、「湘南台1日健康デー」「認知症を知ろう！in湘南台」等イベント開催の側面的な支援を行いました。（共通）

- ④ 長後市民センター地域づくり担当者、長後地区CSWとともに、長後出張相談実施に向けてチラシを長後地区全域に回覧し、11月から長後市民センターにて出張相談を開始しました。延べ5人の相談があり、相談内容としては親亡き後の備えが主でした。御所見地域勉強会は年4回実施し、精神科病院PSWや精神保健分野に特化した訪問看護事業所の看護師を講師に招き、事例検討や情報交換を行いました。遠藤地域情報共有会議は毎月開催され、遠藤地域包括支援センター、遠藤地区CSW及び地区福祉窓口との四者で、近況報告や課題の共有を行いました。そのほか、神奈川県視覚障害者生活技術研究協議会や藤沢市精神障がい者地域生活支援連絡会、湘南東部圏域ネットワーク主催の会議、ひきこもり当事者家族の会等に参加しました（かわうそ）
 - ⑤ 地域ケア会議を3回主催しました。今年度は認知症の事例を取り上げ、湘南台地区における認知症の方の地域課題の抽出をテーマにしました。会議の内容は湘南台地区の協議体（湘南台いきいき会議）で報告し、協議体の活動の柱の一つである認知証の普及啓発活動の検討材料となるようにしました。（包括）
 - ⑥ 高次脳機能障害者支援に関する事例検討会を2回開催しました。1回目は会場で対面開催し、グループワークでは活発に意見交換が行われ、グループ内での名刺交換なども行われていました。2回目はZOOMでの開催としたことで、医療分野からの参加が増えました。多職種間のネットワークのづくりと地域の支援力の強化へ向けた基礎作りを進めることができました。（チャレンジII）
 - ⑦ 地域包括支援センター主催ケアマネサロンの講師対応をきっかけに、参加していた居宅介護支援事業所から出張講座の依頼を受けるなど、ネットワークが広がりました。失語症会話カフェからは今年度も講演依頼を受け、当方からも相談者を紹介する等、連携をいっそう深めることができました。関係機関への普及啓発について、目標の年2回以上を達成することができました。（チャレンジII）
 - ⑧ 地域住民等が参画しやすい地域包括ケアシステム構築のために、今年度はイトーヨーカドー湘南台店との連携を強化し、8月に市北部エリアの他の地域包括支援センターと協働し「いきいきサポートセンター相談会」と題したイベントを開催し、地区割の垣根を超えた周知活動を行いました。そのほか警察、銀行、不動産業等からの相談が多くあり、これまでの周知活動が生かされていることを実感しました。（包括）
- (3) 福祉人材に対する基本姿勢
- ① いぶき相談部署との合同事例検討会を2回、総合相談支援センター部内事例検討会を2回行いました。そのほか、虐待防止委員会の中で事例検討を行い、職員の相談支援スキルや権利擁護意識の向上に努めました。（共通）

- ② 外部研修を各職員が年1回以上受講し、研修報告書を作成、回覧するとともに朝礼や会議などにおいて報告をしました。このことによって、参加したものはより知識を深め、参加できなかった職員にも内容を共有することができました。(共通)
- ③ 湘南看護専門学校の実習生を合計9名(1年生5名、3年生4名)受け入れました。そのほか湘南希望の郷の社会福祉士の実習生3名をそれぞれ半日ずつ受け入れ、地域包括支援センターの役割を伝えることで、地域支援の重要性を説明しました。(包括)
- ④ 業務の効率化を図るため、整理整頓の年間計画表を作成し、整理前と整理後の状態を写真で示すことにしました。このことで、整理整頓された状態が保たれ、利用者への情報提供や減災グッズの補充、目的の書類へのアクセスなどがスムーズにできるようになりました。(共通)
- ⑤ ワークライフバランスを重視し、定時退社を基本としました。やむを得ず残業や休日に出勤した職員は変形労働制により該当日の属する月内で超過した時間を調整しました。(共通)

4 数値実績

2024年3月31日現在

藤沢障がい者生活支援センター	委託相談 (かわうそ)	委託相談 (チャレンジII)	計画相談	
給付管理実績			321件	
契約者(実績)			102人	
延べ相談件数	2,657件	1,694件		
稼働延日数	255日	255日	255日	
職員配置人数(予算人員)	2人	2人	2人	
常勤換算数	2人	1.5人	1.5人	
湘南台地域包括支援センター	介護予防支援事業		介護予防 ケアマネジメント事業	
	総数	包括プラン	総数	包括プラン
給付管理実績	1,775件	787件	1,861件	1,066件
延べ相談件数	1,288件			
介護予防教室実績	23回			
稼働延日数	255日			
職員配置人数(予算人員)	6人			
常勤換算数	5.4人			

5 年間行事（法人全体研修・行事等を除く）

	研修等	行事等
5月	・御所見地域勉強会(かわうそ・チャレンジⅡ)	・当事者向け日中活動 外出:大船フラワーセンター(チャレンジⅡ) ・家族向け日中活動 「当事者の話を聴く会」(チャレンジⅡ)
7月	・第1回地域ケア会議(包括) ・高倉中学校福祉体験学習(かわうそ)	
8月	・失語症会話カフェ講演会(事業所紹介)(チャレンジⅡ) ・御所見地域勉強会(かわうそ・チャレンジⅡ)	・イトーヨーカ堂「いきいきサポートセンター相談会」(包括) ・当事者向け日中活動 「スポーツレク:eスポーツ」(チャレンジⅡ)
9月	・第1回ケアマネサロン(包括) ・事例検討会(チャレンジⅡ) ・第1回藤沢市心のバリアフリー講習会 ・心のバリアフリー推進事業(防災訓練)	・家族向け日中活動 「施設見学:湘南ロボケアセンター」(チャレンジⅡ) ・当事者向け日中活動 「外出:辻堂喫茶店」(チャレンジⅡ)
10月	・出張講座 失語症会話カフェ講演会(チャレンジⅡ)	・湘南台まつり(かわうそ、包括)
11月	・第2回地域ケア会議(包括) ・認知症を知ろう!in湘南台(包括) ・出張講座 ケアパーク湘南台・ミモザ藤沢合同研修(チャレンジⅡ)	・湘南台1日健康デー(公園体操大会)
12月	・御所見地域勉強会(かわうそ・チャレンジⅡ)	
1月	・神奈川県高次脳機能障害支援ネットワーク連絡会(チャレンジⅡ) ・第2回藤沢市心のバリアフリー講習会	・家族向け日中活動 「講演会:高次脳機能障がいの生活リハビリについて」(チャレンジⅡ)
2月	・事例検討会(チャレンジⅡ)	
3月	・第3回地域ケア会議(包括) ・御所見地域勉強会(かわうそ・チャレンジⅡ)	御所見地区健康づくり体験フェア(かわうそ)

6 主な会議等（法人全体会議を除く）

会議名等	開催日	備考
藤沢北地域福祉部部長会議	毎月第1・3木曜日	部門統括・各部長
合同部長会議	毎月最終月曜日	理事長、藤沢北地域福祉部、在宅・公益福祉部の合同会議
総合相談支援センター会議	毎月1回	課長補佐以上
包括職員会議	毎月1回	
支援センター会議	毎月1回	
虐待防止委員会	毎月1回	

7 ヒヤリハット・事故報告

年度	ヒヤリハットレポート件数	事故件数
2023年度	99件	0件
2022年度	88件	0件
2021年度	93件	0件

2023 年度 在宅支援センター事業報告

1 年度総括

障害の状況に応じ、専門特化した支援を提供するために、研修を通じて、一人ひとりの資質向上を図りました。

利用ニーズを実現するために、医療的ケアを対象としたイベントの企画を行い、関係機関と連携し実施いたしました。

神奈川県より指定を受けて強度行動障害支援者養成研修（基礎研修）、同行援護従事者養成研修（一般・応用）の実施など、新たな挑戦をすることができました。

地域の縁側かわうそでは、通所施設と併設されている利点を活かし、プログラムを通し、多くの利用者と交流することが出来ました。

2 実施事業

- (1) 湘南希望の郷ケアセンター：生活介護（通所）
通所体験事業・医療的ケア支援事業（藤沢市障がい者地域サポート事業）
- (2) 発達支援センター リエール：生活介護（通所）
通所体験事業（藤沢市障がい者地域サポート事業）
- (3) 希望の郷ヘルパーステーション：居宅介護・重度訪問介護・同行援護
移動支援（市町村事業）
- (4) 地域の縁側かわうそ：藤沢市地域の縁側「基本型」
（藤沢市支えあう地域づくり活動事業）

3 事業報告

(1) 支援に対する基本姿勢

① 人権の尊重

虐待防止委員会は本会議 2 回、事業所部会 10 回実施しました。本会議では外部委員に加わっていただき、虐待事案などを通して虐待予防（虐待の要因等）の協議、虐待防止計画の進捗状況について確認等を行いました。また、本会議での協議内容は事業所部会で共有し、具体的な方法について検討しました。

② 包括的支援の充実・展開

家族懇談会を各 1 回、家族教室はケアセンター 1 回、リエール 3 回実施しました。家族教室では、外部の家族会の方にご協力をいただきグループディスカッションを実施し、障害の理解と家族同士の共有を深めました。

地域の縁側では、毎月日替わりのプログラムを提供しました。1,286 人の方が利用しました。

③ サービスの質の向上

利用ニーズを実現するために医療的ケアの方々を対象とした「江ノ島シーキャンダルへのぼろう！」を企画し、3人の利用者（ご家族含む）が参加しました。

また、神奈川県障がい者芸術文化活動支援センターのワークショップの実施施設となり、3回のワークショップを開催し、ダンスを実施しました。

④ 安全・安心の環境整備

災害を想定した避難訓練を年6回実施しました。避難方法については、消防署の方々にお越しいただき、車椅子の方の避難について、指導を受けることが出来ました。また、普通救命救急講習1の団体講習を年1回実施しました。

(2) 地域社会に対する基本姿勢

① 地域共生社会への推進

在宅支援センターの機能の一つとして、他事業所等における自閉症の困難ケースへのコンサルテーションを年68回実施しました。

藤沢北地域福祉部と連携し、地域生活支援拠点等の整備に向けて地域生活支援拠点会議を設置し、定期的に会議を開催し、各事業所の取組について検討を行い、中間報告書をまとめました。これらを踏まえ、地域生活支援拠点フォーラムを開催し、ご家族、地域の方々などが50人ほど参加し、貴重なご意見等をいただくことが出来ました。

② 信頼と協力を得るために積極的なPR

毎月ホームページを更新し、事業所の活動等について発信を行いました。

また、毎月地域の縁側のプログラムを御所見地区へ配布したほか、ホームページへチラシの掲載を行いました。

(3) 福祉人材に対する基本姿勢

① 中期的な人材戦略の構築

人材育成を目的として、アセスメントセミナー研修、Teacchプログラム研究会の研修（連続講座）、自閉症eサービス@かながわの主催するアセスメントセミナー研修等に主体的に取り組み、スキルアップに繋げる事ができました。

② 人材の採用に向けた取り組みの強化

ホームページ等にて公募を行い、送迎運転手を2人採用する事ができました。

③ 人材の定着に向けた取り組みの強化

全職員を対象とした腰痛予防講習1回、感染症研修1回を実施しました。障害者雇用について、地域の縁側や、事業所の環境整備の仕事を担っていただき、就労定着支援のスタッフとも定期的に話し合いの場を設け、課題感の共有、問題解決に取り組みました。

④ 人材育成に向けた取組の強化

神奈川県より指定を受けて、強度行動障害支援者養成研修（基礎研修）を実施し、70 人の方が参加されました。

また、同行援護従事者養成研修も開催し、6 人の方が参加されました。

自閉症 e サービス、神奈川県自閉症協会の自閉症療育者のためのトレーニングセミナー、e ラーニング等の主催する研修会の参加を行いました。

利用者への支援の強化として喀痰吸引研修 3 号研修を 1 人受講しました。

4 数値実績

2024 年 3 月 31 日現在

	湘南希望の郷ケアセンター	発達支援センターリエール
利用定員	20 人	20 人
利用登録者数	25 人	35 人
稼働者延数	2,020 人	5,098 人
稼働延日数	251 日	251 日
稼働率	40%	102%
職員数	常勤 6 人（管理者・サービス管理責任者含む）非常勤 1 人	常勤 8 人（管理者・サービス管理責任者含む）非常勤 4 人
常勤換算数	6.5 人	9.6 人

ヘルパーステーション	居宅	同行援護	移動支援
利用登録者数	10 人	65 人	6 人
利用延時間	0	13,369	0
稼働延日数	365 日	365 日	365 日
職員数	3 人（管・サ責）		
ヘルパー職員数	30 人		

5 年間行事（法人全体研修・行事等を除く）

月	研修等	行事等
4 月	自閉症 e サービス	
5 月	自閉症 e サービス、嘱託医勉強会	家族懇談会
6 月	自閉症 e サービス、Teacch 研究会 嘱託医勉強会	さつまいも苗植え付け体験
7 月	トレーニングセミナー、自閉症 e サービス Teacch 研究会、嘱託医勉強会	田植え体験
8 月	自閉症 e サービス、Teacch 研究会	かき氷まつり

	嘱託医勉強会	
9月	Teacch 研究会、感染症研修	避難訓練（地震）、スイカ割り 家族教室
10月	自閉症 e サービス アセスメントセミナー（藤沢北地域福祉部、在宅・公益福祉部共催研修） Teacch 研究会、嘱託医勉強会	江ノ島シーキャンドルへのぼろう！ 稲刈り体験
11月	自閉症 e サービス、嘱託医勉強会	さつまいも掘り、家族教室
12月	自閉症 e サービス、嘱託医勉強会	クリスマスツリーづくり
1月	自閉症 e サービス 強度行動障害支援者養成研修（基礎研修） ファシリテーター研修会 強度行動障害支援者養成研修（基礎研修）	ダンスワークショップ 家族教室
2月	自閉症 e サービス（評価セミナー） 嘱託医勉強会 同行援護従事者研修（一般・応用研修）	ダンスワークショップ 避難訓練（火災）
3月	自閉症 e サービス 地域生活支援フォーラム	避難訓練（垂直） プリン・ア・ラ・モードづくり

6 主な会議等（法人全体会議を除く）

会議名等	開催日	備考
職員会議	毎月1回	部門統括・各部長
虐待防止委員会（本会議）	年2回	外部委員を含む
虐待防止委員会（事業所部会）	毎月1回	
行動支援検討委員会	年2回	
合同部長会議	毎月最終月曜日	理事長、藤沢北地域福祉部、在宅・公益福祉部の合同会議

7 ヒヤリハット・事故報告

年度	ヒヤリハットレポート件数	事故件数
2023年度	156件	5件
2022年度	92件	1件
2021年度	203件	0件

2023年度 藤沢サンライズ事業報告

1 年度総括

「中期経営計画 2025」に基づき、地域における利便性の高い共同生活援助事業所を目指し、法人内の関係部署と情報の共有や課題感の整理等を行いました。

昨年からの課題である空床に関しては、各関係機関と連携をし、公募を行いました
1人入所に留まりました。

老朽化が著しい「藤沢サンライズこうゆう及びくずはら」の補修工事を行いました。

2 実施事業

共同生活援助事業（介護サービス包括型）

藤沢サンライズおそごう・たかくら・おおば・こうゆう・くずはら

3 事業報告

(1) 支援に対する基本姿勢

① 伴走型支援の意識を持って継続的に支援を行う為、毎月個別面談を行い、本人が描いている未来像をより具体的に個別支援計画書に明記しました。

② 利用者の誕生日にアンケートを行い、希望される食事を提供しました。

また、食事関係を含めた満足度アンケートを年1回実施しました。昨年度のデータと比べ満足度が5%上昇しました。

③ 虐待に関する新聞記事等を全職員へ回覧し、虐待及び権利擁護について意見交換を年2回実施しました。

④ 朝礼時に法人基本理念を読み上げ、権利擁護に対する意識向上を図りました。

⑤ 奇数月に全ホーム、火災想定・地震想定・土砂災害想定・居室点検・災害についての勉強会を併せて年6回実施しました。

台風・酷暑対策には災害についての勉強会や啓発チラシをホーム内に掲示し、意識を高めました。また、熱中症対策として保冷剤・経口保水液を常備しました。

⑥ 朝礼時や毎月行っている世話人会議等で、ヒヤリハットの共有や改善策を協議することで、昨年度より事故件数の軽減、事故の未然防止に繋がりました。

⑦ 計画相談員、成年後見人及び介護支援専門員と毎月の面談や連絡を通して、安心して生活が続けられる支援体制の構築を図りました。

⑧ 世話人会議や利用者ミーティングの中で出てきた課題に対して、迅速に対応を行い、安心感の維持に努めました。

(2) 地域社会に対する基本姿勢

- ① 随時、地域で行う行事等のチラシを掲示し、利用者ミーティングにて年 6 回情報提供を行いました。
- ② 災害発生時の円滑な情報共有を目的とした情報受伝達訓練を職員間で年 2 回行いました。
- ③ ホームページに誕生日食、防災訓練及びイベントの様子等を年 10 回掲載しました。

(3) 福祉人材に対する基本姿勢

- ① 日常業務において、支援の方向性と透明性を保持するために、上位職員からのスーパーバイズを積極的に行いました。結果として離職者は 3 人に抑えられました。
- ② 支援者調査シートを年 6 回実施しました。その都度、支援を振り返り、利用者の人権擁護、虐待防止に対しても意識向上を図り、意見交換の場を設けました。
- ③ ホウレンソウカードを活用し、管理者からの回覧ルートを新しく設け、いち早く全職員に周知する事で事故防止に努めました。

4 数値実績

2024 年 3 月 31 日現在

藤沢サンライズ	おそごう	たかくら	おおば	こうゆう	くずはら
利用定員	10 人	5 人	5 人	4 人	6 人
利用者登録数	8 人	5 人	4 人	4 人	6 人
稼働者延数	2,953 人	1,809 人	1,330 人	1,438 人	2,175 人
稼働延日数	365 日	365 日	365 日	365 日	365 日
稼働実績 (%)	81%	99%	73%	98%	99%
職員数	常勤 4 人 (管理者・サービス管理責任者含む) + 世話人 24 人				
常勤換算数 (名)	2.5 人	1.3 人	1.5 人	1.4 人	1.6 人

5 年間行事 (法人全体研修・行事等を除く)

月	研修等	行事等
4 月		
5 月		避難訓練 (火災) 誕生日会 (おおば)
6 月		誕生日会 (おおば・くずはら・たかくら)
7 月	情報受伝達訓練	避難訓練 (防災の勉強会) 誕生日会 (おそごう・こうゆう)
8 月		誕生日会 (おそごう)
9 月	住まいと暮らし連絡会主催研修	避難訓練 (地震)
10 月		誕生日会 (おおば・おそごう)

11月		避難訓練（居室防災点検）誕生日会（おそごう・くずはら）
12月		クリスマス会 誕生日会（たかくら・くずはら・こうゆう）
1月		避難訓練（土砂・水害・火災）誕生日会（おそごう・たかくら）
2月		誕生日会（たかくら・こうゆう・くずはら）
3月	情報受伝達訓練・住まいと暮らし連絡会主催研修	避難訓練（地震）誕生日会（こうゆう・おおば・くずはら）

6 主な会議等（法人全体会議を除く）

会議名等	開催日	備考
藤沢サンライズG連絡会	毎月第2火曜日	
藤沢サンライズアセスメント会議	最終火曜日	
各ホームの世話人会議	毎月第2週（月・火・木・金）	サンライズ職員、世話人
個別支援検討会議	毎月第2週（月・火・木・金）	サンライズ職員、世話人
利用者ミーティング	奇数月 第1週～第2週（月～金）	利用者、サンライズ職員
虐待防止委員会	毎月第2火曜日	
合同部長会議	毎月最終月曜日	理事長、藤沢北地域福祉部、在宅・公益福祉部の合同会議

7 ヒヤリハット・事故報告

年度	ヒヤリハットレポート件数	事故件数
2023年度	97件	1件
2022年度	57件	3件
2021年度	111件	2件

2023 年度 障がい福祉センターひかり 一時預かり 事業報告

1 年度総括

藤沢市内の障害児者が安心して生活するための地域資源として、年間 25 人の医療的ケアの必要な障害児の受け入れを行いました。

他事業所では受け入れが難しい児童を含めた新規登録者 7 人の受入れを行い、保護者のレスパイトや緊急一時的な利用の枠組みを拡げることが出来ました。

2 実施事業

藤沢市障がい児者一時預かり事業

3 事業報告

(1) 支援に対する基本姿勢

- ① 保護者のレスパイトや、本人の社会経験を目的にした、医療的ケアのある障害児を年間で 25 人の受入れを行いました。
- ② コロナを含めた感染症対策を行う為、職員の手指消毒、手洗いの苦手な利用者に対しても毎日行いました。
- ③ 年 1 回利用者満足度アンケートを行い、100%の満足度「良い」評価を受けました。

(2) 地域社会に対する基本姿勢

- ① 保護者へのレスパイトや緊急一時的な利用ができる様、土日と祝祭日の運営を行いました。
- ② 湘南シークロス商店会の事業活動に参加し、地域との交流を行い関係性の向上に努めました。
- ③ 毎月ホームページの更新を行い、最新の情報を地域に発信しました。

(3) 福祉人材に対する基本姿勢

- ① 奇数月に支援者調査シートを行い、利用者の人権と虐待の意識向上に努めました。
- ② 定期的に危険予知トレーニングを行い、県報告の事故は 0 件でした。
- ③ 3 事業所が協力して職場改善の 3S 活動を継続する事で、安心して利用できる職場にすることが出来ました。

4 数値実績

2024年3月31日現在

ひかり（一時預かり事業）	
利用定員	5人
利用登録者数	271人
稼働者延数	856人
稼働延日数	312日
稼働率	55%
職員数	常勤3人
常勤換算数	3.0人

5 年間行事（法人全体研修・行事等を除く）

	訓練・設備点検等	研修
5月	エレベーター点検	業務継続研修
8月	避難訓練（火災想定）	
9月		感染症対策研修
10月		虐待防止研修
12月	ビル窓清掃	人権研修・ハラスメント研修
2月	避難訓練（地震想定）	感染症対策研修

6 主な会議等（法人全体会議を除く）

会議名等	開催日	備考
ひかり運営会議	毎月第4金曜日	
虐待防止委員会	毎月第4金曜日	
合同部長会議	毎月最終月曜日	理事長、藤沢北地域福祉部、在宅・公益福祉部の合同会議

7 ヒヤリハット・事故報告

年度	ヒヤリハットレポート件数	事故件数
2023年度	108件	0件
2022年度	108件	0件
2021年度	126件	0件

2023 年度 太陽の家運営管理室・体育館事業報告

1 年度総括

太陽の家については、2004 年度より藤沢市から指定管理を受けている施設で、2023 年度は第 6 期 5 年間の 1 年目であり、藤沢市と情報交換を密にしながら施設の維持に努めました。

1975 年に開設した施設は、設備全体の老朽化が進んでおり、優先度合を考慮して利用者トイレや支援室、諸室の雨漏り等の修繕を行って、利用者にとって良好な環境となるよう整備を行いました。

太陽の家体育館は、指定管理事業の一環として、障害者の方がスポーツを行える場として、障害者スポーツの普及と太陽の家利用児者の健康管理の役割を担っており、新型コロナウイルス感染防止対策と、体育館の本来の使命を実現するために、障害者に特化して障害者スポーツ自主事業を行いました。

2 実施事業

- (1) 太陽の家施設・設備維持管理事業（藤沢市指定管理事業）
- (2) 太陽の家体育館：体育館運営事業

3 事業報告

(1) 支援に対する基本姿勢

- ① 職場改善の 3S（整理・整頓・清掃）活動を行いました。
- ② 法人の倫理規程を周知し、人権を尊重した基本姿勢の保持につなげました。
- ③ 月に 1 回、虐待防止委員会を開催するとともに全職員を対象に虐待防止研修を開催し人権擁護意識を高めました。
- ④ 毎月の自主点検に加え、藤沢市消防本部と連携し、太陽の家総合防災訓練を実施し、避難誘導の手順の確認、模擬消火器を使用した消火訓練、煙体験などを実施しました。
- ⑤ 太陽の家まつりは、新型コロナウイルス感染症の扱いがⅡ類からⅤ類に変更となり、4年ぶりにご家族や地域からの来客を招き実施しました。

当日午前中は台風並みの風雨にもかかわらず、多くの方の参加をいただき、大きな盛り上がりでした。

- ⑥ 老朽化する施設の修繕や補修を図り、利用児者用トイレの交換修繕など必要な整備を進め、利用者にとって快適な環境づくり行いました。
- ⑦ 太陽の家体育館として、新型コロナウイルス感染症の扱いがⅡ類からⅤ類に変更となったが、感染症対策をしながら、体育館の本来の使命を実現するために、障害者に特化した障害者スポーツ自主事業を行いました。
- ⑧ 太陽の家体育館の新たな障害者スポーツ種目の普及を目指して、シャフルボード

大会「第1回太陽の家カップ」を開催し、100名程の参加があり、大変な盛り上がりで実施しました。

- ⑨ 太陽の家行事実施及び参加状況については次のとおり
 - 5月 鶴沼地区社会福祉協議会総会（書面開催）
 - 6月 太陽の家まつり
 - 11月 太陽の家総合防災訓練
- ⑩ 藤沢市障がい者支援課・子ども家庭課との連絡調整会議を実施しました。

(2) 地域社会に対する基本姿勢

- ① 藤沢市指定避難所として施設の管理と調整を行いました。
- ② 福祉なんでも相談窓口を継続して開設している。（本年度受付は0件）
- ③ 藤沢市鶴沼地区防災拠点本部（鶴沼市民センター）と、避難施設としての情報の共有、器具庫内の備品等の点検及び更新については行われなかった。体育館エレベーター内に設置してある防災用備蓄ボックスの業者定期点検を年1回は行うこととして、災害時に備えました。
- ④ 毎年関係団体と連携して実施しているローリングバレーボール講習会と、フロアバレーボール講習会は自主事業の中で行いました。（体育館）
- ⑤ 選挙時には、投票所として施設管理者業務を行いました。

(3) 福祉人材に対する基本姿勢

- ① 全職員を対象に、4月15日（土）に健康診断を実施しました。

4 数値実績

2024年3月31日現在

	体育館事業（会議室含む）
利用者延数	12,344人
稼働延日数	午前115日 午後172日 夜161日
稼働率	午前38.2% 午後57.1% 夜53.5%
職員数	常勤2人（兼務2人） 非常勤8人
常勤換算数	0.49人

5 年間行事（法人全体研修・行事等を除く）

月	研修等	行事等
6月		太陽の家まつり
10月		S T T大会
12月		障がい者交流卓球大会

		インフルエンザ予防接種
2月		シャフルボード体験会

※ 例年開催をしているサウンドテーブルテニス大会は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、行いませんでした。

6 主な会議等（法人全体会議を除く）

会議名等	開催日	備考
藤沢市との連絡調整会議	偶数月第3水曜日	障がい者支援課・子ども家庭課
藤沢南地域福祉部運営会議	毎月最終水曜日	総合施設長・部門統括・各事業所管理職
藤沢南地域福祉部部門内会議	毎週木曜日	部門統括・各事業所部長
衛生推進委員会	毎月第1火曜日	衛生推進委員
体育館職員全体会議	毎月第1水曜日	
体育館職員打ち合わせ	毎月第3水曜日	

7 ヒヤリハット・事故報告

年度	ヒヤリハットレポート件数	事故件数
2023年度	86件	0件
2022年度	55件	0件
2021年度	21件	0件

2023 年度 太陽の家しいの実学園事業報告

1 年度総括

2023 年度の太陽の家しいの実学園は、児童発達支援センターとしての機能を明確にして支援を継続してきました。

保育所等訪問支援事業において地域ニーズに応えるべく、契約者数が前値比 200%を達成したほか、初めて市内公立小学校での支援を行うことが出来ました。このことは、保育園や幼稚園にとどまらず、児童の成長の過程において、教育機関と連携したという大きな一歩と考えています。

居宅訪問型児童発達支援においては、藤沢市唯一の事業所として、初めて在宅での医療的ケア児の利用者支援を図ったことで、地域福祉の推進に大きく寄与したと考えています。

2 実施事業

- (1) 児童発達支援事業
- (2) 保育所等訪問支援事業
- (3) 障害児相談支援事業・計画相談支援事業
- (4) 居宅訪問型児童発達支援事業

3 事業報告

(1) 支援に対する基本姿勢

- ① 保育所等訪問支援事業において、訪問支援員を 1 名増員し地域のニーズに応じました。そのため、契約者数においても 12 名となりましたが、地域のニーズは大きく、さらなる強化が必要であると考えます。
- ② 嘱託医と連携を図り医療的な見立てを頂いたほか、各分野の専門職の見立ての下に討議し、障害の状態像の共有化を図りました。また、上記の見立てを基に支援の共通化を図りました。
- ③ 医療的ケア児等コーディネーター養成研修履修者を藤沢市に登録し、各種会議に参加し地域課題を協議しました。また、居宅訪問型児童発達支援事業の指定を得て、藤沢市唯一の事業所として、事業展開を開始しました。実際は、8 月より 2 件の利用者と契約し、事業を継続しております。
- ④ マチコミメールを活用し、日常の通園バスの運行状況や感染症等の発生にまつわる大事なお知らせ及び学園行事などもタイムリーに発信しました。
また、防災時のアナウンスのツールとても活用するため、マチコミメールを活用した、引き渡し訓練を 9 月に実施しました。

- ⑤ 行き渋りのある児童に対し居宅へ訪問し、通園につなげる支援を行いました。
- ⑥ 遊具において、経年劣化は顕著であるものの、定期的なメンテナンスを行い安全に活用が行えました。
- ⑦ ヒヤリハットレポートからリスク改善活動を行いました。改善対策も抽象的な表現で講じてしまうことをあつたため、第三者が対策を評価し、形骸化されないように努めました。

(2) 地域社会に対する基本姿勢

- ① 共通の利用者が通園する保育園と互いに顔の見える関係を構築しました。
また、行政・教育機関からの要請により、教育機関の看護師及び教師などが来園されたほか、藤沢市小学校教育研究会道德部の教師 20 人近くを受け入れ太陽の家の機能紹介を行いました。
- ② 毎月「しいの実だより」を作成し発行しました。また、次年度へ向けてのコンセプトを再考し、一新した「しいの実だより」を発行するようにしました。
- ③ 感染症に配慮しつつ、15 校 20 人の実習生を受け入れました。当園で実習を重ねた 2 人が職員として 2024 年度に採用されております。
- ④ 障害児相談支援において、2 人が相談支援従事者初任者研修に受講したほか、3 人を相談支援専門員従事者現任者研修へ受講いたしました。
また、精神障害者支援体制加算要件研修へ 1 人が受講をし、機能強化型体制加算Ⅳの取得が出来ました。主任相談支援専門員養成研修には、応募はしたものの選考で落選し受講はできませんでした。
- ⑤ 保育所等訪問支援事業の契約者数は、前年比 200%となりました。また、契約している利用児の内、当園と併行通園をされている児童 4 人に支援を行い、当園にもフィードバックを行い、支援に厚みを持たせる事が出来ました。
また、1 人の児童が、地域の保育園の利用日数が増え、地域移行の推進に努めました。

(3) 福祉人材に対する基本姿勢

- ① クラス単位でケース検討を重ね、園児の状態像の共通化を図りました。また、先輩職員によるスーパーバイズや経験の浅い職員の発想を取り入れ、柔軟な考えの下に支援を行いました。
- ② 毎月虐待防止委員会・身体拘束適正化委員会を開催しました。
また、全職員に対して、セルフチェック用紙にて、自己点検を図った他、その結果を全体研修会のテーマとし、グループワークを行いました。
- ③ 感染症により、積極的な外部研修への派遣はできませんでした。しかしながら資格取得研修には派遣をして、長期的なビジョンで持続可能な事業運営を意

識しました。また、法人主催の強度行動障害者支援者養成研修のファシリテーターに1人、派遣を行いました。

- ④ 藤沢市や他の児童発達支援センターと、都度会議を開催し、児童発達支援センターの役割を整理しました。また、児童発達支援センター機能強化事業について協議も重ねました。
- ⑤ 定時退社の励行をしました。また、業務の分担の再考を図り、一定の職員が業務過多にならないようにしました。結果、年次有給休暇の取得推進も図れました。

4 数値実績

2024年3月31日現在

	児童発達支援事業	障害児相談支援事業	保育所等訪問支援事業	居宅訪問支援事業
利用定員	60人	—	—	—
利用登録者数	72人	126人	12人	2人
稼働者延数	12,151人		98人	7人
稼働延日数	244日	244日	98日	7日
稼働率	83%	—	—	—
職員数	常勤24人(管理者・児童発達支援管理責任者含む) 非常勤19人	常勤3人(兼務1人含む) 非常勤1人	常勤3人(管理者・児童発達支援管理責任者含む)	
常勤換算数	38人	2.9人	0.3人	

5 年間行事(法人全体研修・行事等を除く)

月	研修等	行事等
4月		入園を祝う会 全体懇談会
6月		太陽の家まつり
		クラス懇談会 個人面談
7月	児童発達支援管理責任者養成研修基礎	保護者参観日
8月		個人面談
9月	相談支援従事者初任者研修2人	

	児童発達支援管理責任者養成研修実践 精神障がい者支援の障がい特性と支援方法 これからの障がい児通所支援事業所が目指すもの 精神障がい者の障がい特性と支援方法 学童期の器量的ケア児座談会	
10月	児童発達支援管理責任者養成研修実践	全体懇談会 運動会
11月	感染症研修（実地）	さつま芋掘り 保護者参観日 次年度入園説明会
12月	感染症研修（座学）	餅つき大会
1月	サービス管理責任者補足研修	新入園面談 個人面談
2月	人口呼吸器に係る研修	
3月		次年度入園説明会 卒園式

6 主な会議等（法人全体会議を除く）

会議名等	開催日	備考
藤沢南地域福祉部門内会議	毎週木曜日	
太陽の家運営会議	毎月最終水曜日	
藤沢市連絡調整会議	隔月第3水曜日	
職員会議	毎月第4木曜日	
身体拘束適正化委員会・虐待防止委員会	毎月第3月曜日	

7 ヒヤリハット・事故報告

年度	ヒヤリハットレポート件数	事故件数
2023年度	259件	0件
2022年度	183件	7件
2021年度	191件	4件

2023 年度 藤沢市太陽の家藤の実学園事業報告

1 年度総括

2023 年度の年度方針として「福祉サービス及び利用者支援の質を落とすことが無いよう、感染症等予防対策を講じながら変化するその時々的情勢に対して柔軟且つ適切に対応していく」ことを挙げましたが、コロナ感染関連により 3 日間休園することになってしまいました。

新規利用者の確保においては、各教育機関や保護者に対して積極的に説明会や見学を実施したことにより 3 人の新規利用者の契約に繋がりました。

利用者支援においては、利用者がより自分らしく、自己選択、自己決定のもと日中活動が送れるよう、それぞれの障害特性に応じた支援を展開してきており、そのために必要な環境整備、支援及び感染症に係わる研修も受講を進めるなど、職員の専門性の向上に努めました。

2 実施事業

(1) 生活介護事業（障害者総合支援法）

3 事業報告

(1) 支援に対する基本姿勢

- ① 感染症予防対策を講じながら支援の質を落とすことが無いよう留意していましたが、コロナ感染により 3 日間の休園を実施しました。
- ② 実習生の受け入れを積極的に行い、採用の機会を増やしました。また養護学校との繋がりを積極的に持ち新規利用者を 3 名確保できました。
- ③ 送迎体制の見直しを行い、家族の負担軽減を図りました。
- ④ ヒヤリハットレポートの提出を毎月 40 件以上の目標として、職員会議等で情報を共有して、安心、安全なサービス提供に努めました。
- ⑤ 日頃の支援に対する意識、行動を自己確認する「支援者調査シート」を 2 か月毎に実施し、人権擁護意識の維持・向上を図りました。
- ⑥ 利用者懇談会を年間 2 回、家族懇談会を年間 3 回実施し、ご家族の意見、要望をくみ取りながら提供するサービスの向上を図りました。
- ⑦ 嘱託医、看護師等と連携しながら、個々の障害特性に応じた支援を行いました。

(2) 地域社会に対する基本姿勢

- ① 福祉人材の育成として、社会福祉士、介護福祉士、保育士等の各種実習について積極的に受け入れました。

- ② 法人ホームページの更新を毎月行い、学園の活動を広く知ってもらうことで地域の理解がより得られるように努めました。
- ③ ボランティアの受け入れを行い、施設運営の透明性、公開性に努めました。

(3) 福祉人材に対する基本姿勢

- ① 一つのチームとして取り組める様、日々のコミュニケーションを重視し、グループ等の会議や職場の環境整備、職員交流を積極的に行うことで職員間の繋がりを深めるよう努めました。
- ② 新任職員に対してチームリーダー職を育成担当として配置し、フォローアップを行うことで、人材の定着、育成を図りました。
- ③ ワークライフバランスに配慮した取り組みとして、デスク業務や登園・降園時の対応業務などスリム化が必要な業務を職員会議等で協議、改善を図り、定時での出勤に繋がりました。
- ④ 常勤、非常勤職員共に、管理職による個人面談を実施し、職員会議等では発言しにくい意見や提案を吸い上げ、風通しの良い職場風土づくりに努めました。

4 数値実績

2024年3月31日現在

	生活介護事業
利用定員	60人
利用登録者数	62人
利用者延数	11,951人（1日平均利用者数47.1人）
稼働延日数	254日
稼働率	78.4%
職員数	常勤20人（管理者・サービス管理責任者含む）非常勤8人
常勤換算数	27.3人

5 年間行事（法人全体研修・行事等を除く）

月	行事等	研修等
4月	家族懇談会①、ハイキング週間	新任職員研修、普通救命講習 身体拘束防止研修
5月	春のバス旅行	行動援護従事者養成研修
6月	太陽の家まつり、各班小旅行	改善活動研修、次世代人材研修
7月	園庭プール	サービス管理責任者補足研修
8月	園庭プール	サービス管理責任者実践研修・基礎研修
9月	利用者懇談会①	強度行動障害支援者養成研修

10月	運動会、家族懇談会(2) 一泊旅行	
11月		サービス管理責任者基礎研修
12月	お楽しみ会	サービス管理責任者基礎研修
1月	成人の集い	強度行動障害支援者養成研修
2月		
3月	駅伝大会、家族懇談会③ 利用者懇談会②	感染症研修

6 主な会議等（法人全体会議を除く）

会議名等	開催日	備考
藤沢市との連絡調整会議	偶数月第3水曜日	
太陽の家運営会議	毎月最終水曜日	
藤の実学園学園運営会議	毎月第4月曜日	
虐待防止委員会	毎月第4月曜日	
職員会議	毎月第4木曜日	
グループ会議	毎月各1回	生活・活動グループ
個別支援計画検討会	8月	7・8月面談、9月契約
モニタリング会議	2月	3月報告
藤沢南地域福祉部部門内会議	毎週木曜日	
藤沢南地域福祉部衛生推進委員会	毎月第2火曜日	

7 ヒヤリハット・事故報告

年度	ヒヤリハットレポート件数	事故件数
2023年度	472件	1件
2022年度	606件	0件
2021年度	445件	1件

2023 年度 放課後等デイサービス太陽の家事業報告

1 年度総括

2023 年度は前年度に引き続いて、感染予防対策を講じながら事業運営を行ったことにより、新型コロナウイルスやノロウイルスの影響を受けることなく年間を通して休むことなく開所ができました。

また、感染予防も兼ねて屋外活動を積極的に導入することにし、「クリーン活動」や「農作業」を小・中・高校生が一緒になって、交流をしながら地域貢献や教養を培う支援をすることができました。

2 実施事業

- (1) 放課後等デイサービス事業（単位1 ほっとスペース・単位2 どんぐり）

3 事業報告

- (1) 支援に対する基本姿勢

- ① 職員間での支援の方向性や統一した支援を目指すため、定期的な会議及び職員主体の研修を実施しました。
- ② 衛生推進委員会で取り上げられた感染予防対策を軸に職員間の知識を共有する事で予防策と利用児童の健康管理に取り組みました。
- ③ 利用児童の人権擁護を念頭に支援を行った。あわせて毎月の虐待防止委員会で虐待ケースの確認や情報共有を行いました。
- ④ 保護者と密に連携と情報共有をして、当事業所で利用集約を図り、児童の利用環境を改善し利用者の増（2人増）に繋げました。

- (2) 地域社会に対する基本姿勢

- ① 月1回のクリーン活動を目指し、小・中・高校生の枠を超えて交流することにより地域への貢献と達成感を一緒に体感できました。また、太陽の家まつりで来園者の方へクリーン活動体験や活動内容の掲示を行い、地域社会へ支援内容のアピールができました。
- ② 活動の様子を毎月1回以上ホームページに更新した。また、大きな行事は動画で配信を行いました。

- (3) 福祉人材に対する基本姿勢

- ① 看護師や実習生を年間15人以上受け入れました。
- ② 職員に隔月で支援調査シートを記入してもらい、職員のメンタルヘルス及び

適性検査を実施した後に、それらの結果を受けて管理職と面談を行って、メンタルの傾向と予防に努めました。

4 数値実績

2024年3月31日現在

	ほっとスペース	どんぐり
利用定員	10人	10人
利用登録者数	27人	32人
利用者延人数	2,175人	2,256人
利用延日数	256日	256日
利用率（年間）	85.1%	88.1%
職員数	常勤8人（管理者・児童発達支援管理責任者含む）非常勤1人	
常勤換算数	9人	

5 年間行事（法人全体研修・行事等を除く）

月	研修等	行事等
4月		
5月	職員主催のKYT研修	神奈川ワークショップで農業体験
6月	PDCAサイクル研修（児童対象）	
7月	PDCAサイクル研修（職員対象）	すいか割り・買い物体験
8月		かき氷・縁日遊び・水遊び
9月	社会人基礎力チェックリスト	クリーン活動（江の島海岸へ）
10月		ハロウィンイベント
11月		さつま芋収穫祭、焼き芋
12月	消防意識向上KYTグループ研修	クリスマス制作、年越しうどん作り
1月	てんかん発作研修	正月初詣、五平餅作り
2月	チームワーク向上研修	節分イベント、足浴イベント
3月		卒業制作

6 主な会議等（法人全体会議を除く）

会議名等	開催日	備考
どんぐり会議	毎週第2月曜日	どんぐり職員
ほっとスペース会議	毎週第2金曜日	ほっとスペース職員
放デイ運営会議	毎月第3水曜日	全職員
モニタリング研修（前期）	6月	利用児童全員対象
個別支援計画検討会議（前期）	8月	利用児童全員対象

モニタリング会議（後期）	12月	利用児童全員対象
個別支援計画検討会議(後期)	2月	利用児童全員対象
藤沢南地域福祉部部門内会議	毎週木曜日	部長以上

7 ヒヤリハット・事故報告

年度	ヒヤリハットレポート件数	事故件数
2023年度	412件	0件
2022年度	347件	0件
2021年度	358件	0件

2023年度 磯子地域福祉部事業報告

1 年度総括

障害者とその家族が住み慣れた地域で安心して生活することができるように、地域活動ホームならではの多様な機能を最大限活かしてその使命を果たせるように努めました。

さらに地域生活支援拠点の役割を担う立場として、障害福祉分野をはじめとする地域課題に対して関係機関や地域と連携することにより解決につなげていくように取り組みました。

2 実施事業

- (1) 横浜市社会福祉法人型障害者地域活動ホーム
 - ・地域活動ホーム運営費補助事業（生活支援事業・地域交流事業・区連携事業）
 - ・障害福祉サービス
（特定・一般相談支援、生活介護、地域活動支援センター事業ダイサービス型）
- (2) 磯子区基幹相談支援センター
- (3) 障害者自立生活アシスタント
- (4) 磯子区障害者後見的支援室「コネクト・ハート」
- (5) グループホーム いぶきの家（共同生活援助）

3 事業報告

(1) 支援に対する基本姿勢

① 障害者地域活動ホーム

毎月第一火曜日に虐待防止委員会を開催しました。虐待防止研修として全職員で「施設・地域における障害者虐待防止チェックリスト」によるアンケートを実施しました。回答結果で抽出された課題に関する聞き取りシートを作成して再度アンケートを行い、課題の共有を図りました。また9月に県立施設での虐待事例についてグループディスカッションを行うなど、障害者虐待の防止と人権擁護の意識醸成に努めました。

コロナ禍で中断、縮小していた祭りや日中活動の外出行事を再開し、利用者満足度を向上させる取り組みとしました。

避難訓練や安全運転講習会などを開催して安全安心な支援体制づくりに取り組みました。

② 日中活動（生活介護、地域活動支援センターダイサービス型）

コロナ禍で中止していた外出行事を再開させ、遠足や食事会などを実施して

利用者、ご家族の満足につなげました。

- ・11月 八景島シーパラダイスへ遠足。(木曜日利用者40人参加。)
- ・3月 ホープグループ食事会。(利用者8人参加)
- ・今年度20歳になられた利用者2人の成人式を行い、お祝いをしました。

③ 生活支援（一時ケア、ショートステイ）

いぶき相談部門や外部関係機関と連携し、緊急受け入れ等について柔軟に対応するように努めました。また、定期的なレスパイト利用を受け入れることで本人・家族の負担軽減を図り、緊急事態防止につなげました。

④ 余暇活動

コロナ禍で休止していた余暇活動を再開しました。12月にカラオケ（参加者2人）、2月に市内ボウリング場にてボウリング（参加者4人）、3月に小田原にて海鮮丼ランチ行事（参加者4人）を実施して地域で暮らす障害児者の余暇支援に貢献することができました。

⑤ おもちゃ文庫

新型コロナウイルスが5類感染症へ移行した5月8日より終日解放を再開し、就学前の幼児を持つ地域住民の子育て支援に資することができました。

年間利用者数：1,276人（大人610人、子供657人）

⑥ 基幹相談支援センター

3機関の定例カンファレンスでは、緊急事態発生時の対応について分析し、取りまとめた内容を1月の区自立支援協議会担当者会で報告しました。

区内地域ケアプラザ5か所を訪問し、各エリアのインフォーマルな資源の情報収集を行いました。

指定特定相談支援事業所への支援強化を目的に、8月・9月・11月・3月に1か所ずつ訪問して事業所が抱えているケースの困りごとなどについて情報交換を行いました。また、計画相談に必要な情報は都度一斉メールで区内全事業所に発信しました。

2月に自立支援協議会で権利擁護に関する学習会を行いました。動画配信を1か月間行った後、オンラインでグループワークを行いました。（31事業所延べ45人の参加）

⑦ 計画相談

103人の登録者に対し、計画的にモニタリングと計画作成を行いました。

主任相談支援専門員研修を修了したことにより、8月より加算算定を開始し、10月に県主催で初めて開催された「主任相談支援専門員連絡会」に出席するなど支援体制の充実に努めました。

⑧ 後見的支援事業

地域ケアプラザへの訪問や民児協とのつながりを意識してきた結果、3人の新規

キーパーの登録となりました。

11月に行われた区連携事業にて、事業について説明を行い事業啓発に努めました。同じく11月に「つどう会」を開催し、登録者のご家族、あんしんキーパーなど24名が出席し、交流を深める機会となりました。

⑨ 自立生活アシスタント

登録者の生活状態の改善に伴い、支援を終結することができる場所、本人の意向を尊重して継続とする事例もありましたが、基本的な姿勢としては他の社会資源利用の提案もしつつ、終結を目指す支援に努めました。

10月に自立生活アシスタント実践研修(2日間)にファシリテーターとして出席、11月に区連携事業で事例発表と事業紹介を行いました。12月は「横浜市後見的支援・自立生活アシスタント座談会」に参加をするなど、他機関との連携や事業の発展にも尽力しました。

また、2月に法人内イキイキチャレンジ活動にて生活困窮者アウトリーチ事業について発表するなど、生活困窮者支援に対しても積極的な取り組みを行いました。

⑩ グループホームいぶきの家

個別支援計画作成時やモニタリング時に、本人・家族・関係機関から丁寧に聞き取りを行い、今まで希望を表出することが難しかった利用者からの訴えを具体化するために職員と一緒に体験する経験を積み、休日の外出やガイドヘルパー利用につながりました。

11月に横浜市による実地指導が行われました。個別支援計画作成について、利用者一人一人の目的、将来の方向性に寄り添った計画作成がされ、併せて丁寧なケース検討会議が行われていることについて高く評価されました。令和4年度食材料費の精算について対応するよう指摘を受け、改善報告書を提出しました。

⑪ 事故低減活動

朝礼や終礼でヒヤリハット報告・事故報告を共有し、事故予防や再発防止に対する意識を高める取組みを継続しました。

1月に外部講師(交通心理士)による安全運転講習会を実施しました。座学と運転席からの死角を体験する実習により、車両の安全運行への意識向上を図ることができました。

⑫ 防災・災害関係

8月に日中活動等で火災想定避難訓練を、2月にショートステイ室における夜間想定避難訓練を実施しました。

⑬ 区連携事業

11月に磯子区役所で第1回区連携事業「障害のあるご本人とご家族のための将来を考える講座」を開催(66人の参加)。当事者家族からの体験談、後見的支援室、自立生活アシスタントの制度説明を行いました。

12月に杉田劇場で第2回区連携事業として「精神障害者の地域生活を考える」講演会、当事者発表、シンポジウムを行いました（149人の参加）。

1月にいぶきで区内の障害福祉事業所職員やいぶき職員を対象とした第3回区連携事業として「個別支援計画作成の基本」研修とグループワークを実施しました（約30人の出席）。

(2) 地域社会に対する基本姿勢

① 日中活動

7月に金沢支援学校が主催する進路検討会にていぶきの事業説明、現状と課題を報告しました。検討会は、ご家族向け・教員向けの2部制になっていて、ニーズに沿った支援の取り組みについて具体的な話しを聞いていただくことができました。

支援学校より男性1人、女性3人、計画相談より女性1人、計5人の実習生を受け入れました。

11月に横浜市健康福祉センターで行われた「地活生活支援会議」に出席し、市内事業所の困りごとの共有や連携のための関係づくりを図ることができました。

② 基幹相談支援センター

区内地域ケアプラザ5か所を訪問し、地域防災や地域の見守り機能について情報交換を行いました。また11月に地域ケアプラザ主催ケアマネサロンにて、障害のある方の高齢期について理解を深めるための意見交換を行いました。

10月に自立支援協議会で防災に関する学習会を行いました。（45事業所から延べ53人が参加）自助と共助についての取り組みを生活介護事業所「いそご青い鳥」に、地域での連携に関する取り組みを作業所「どーなつ」と滝頭地域ケアプラザに発表してもらい、実態に即した学びの機会とすることができました。

③ 後見的支援事業

事業の普及啓発を目的に、広報誌を6月と1月に発行しました。いぶきだよりに同封する配布方法に変更したことで、送付先を拡大することができました。磯子区地域福祉保健計画策定会議にも出席して事業の啓発にも努めました。

④ 運営委員会

運営委員会を6月・11月・3月に開催しました。家族代表をはじめ、行政機関や区内福祉事業者・支援学校・地域自治会・医療関係者などから構成されている委員の皆様、前年度当年度の事業進捗や次年度の事業計画を議案として審議していただきました。また、皆様から地域課題に関連した話題のお話いただくなど、地域活動ホームの運営の方向性を検討する貴重な機会となりました。

⑤ 地域交流事業

10月に「すぎたから♡つな5・いぶきまつり」を開催し、区内事業所や近隣自治

会、キッチンカーなどの模擬店出店（19 店舗）がありました。ステージプログラムでは、吹奏楽「プラスカスミッシモ」、和太鼓「久良岐太鼓」、マジック「イソット」の出演により盛況に開催することができました。5 施設合同の来訪者数は 1631 名、内いぶきは 400 人となりました。

12 月に磯子公会堂において「いぶき後援会チャリティーコンサート・渡海千津子のオペラって楽しい♪」を開催しました（311 人の来場者）。終了後のアンケートでは好評の声を多数いただきました。

⑥ ボランティア活動の拡充

コロナ禍により活動を休止、縮小していたおまつりを始めとするイベントや、余暇活動などの事業について再開することができましたが、ご協力いただいていたボランティア活動については実績を残すことができませんでした。

⑦ 地域への啓発活動

11 月に富岡中学校 2 年生 2 名の「職場体験」を実施しました。日中活動支援事業にて障害者の通所支援について学ぶ機会を提供しました。

⑧ 地域防災

5 月に「磯子区災害ボランティアネットワーク」総会、7 月・3 月に磯子区福祉避難所連絡会に出席し、地域防災の必要性について理解を深めました。6 月・11 月に磯子区福祉避難所情報受伝達訓練に参加し、区の防災担当とサイトを通じて避難者受け入れ確認の訓練を行いました。

(3) 福祉人材に対する基本姿勢

① 福祉人材育成研修

新卒者・中途採用者に対し、いぶき職員が講師となり基礎研修として次のメニューを実施しました。（いぶきの概要、相談支援、障害特性、ボディメカニクス、感染症対策など）

また、外部研修としてサービス管理責任者基礎研修 1 人・補足研修 2 人・実践研修 3 人、相談支援現任研修 1 人、強度行動障害支援力向上基礎研修 3 人・実践研修 1 人、県社協「コミュニケーション研修」3 人を派遣しました。

② キャリア形成

部内研修として毎月の出勤日に支援力向上を目指し、主に職員が講師となり所内研修を計画的に実施しました。4 月 意思決定支援・身体介護①、5 月 身体介護、7 月 個別支援計画書研修、9 月 事例検討会、3 月 個人情報保護研修。

③ 人材採用・確保

4 月 1 日付で生活支援員 1 人新卒採用。6 月に後見的支援室非常勤 1 人採用。8 月に看護職員採用しました。9 月に次年度新卒者 2 人の見学対応を行いました。

④ 専門学校等実習生受入れ

社会福祉士実習 3 人、保育士実習 3 人、医大生実習 2 人の受け入れを行いました。

4 数値実績

2024 年 3 月 31 日現在

	生活介護	地活デイ	シヨートステイ 一時ケア	グループホーム	計画相談	基幹相談 (件数)	後見的支援 (登録者数)	自立生活アシス タント
利用定員	40 人	10 人	4 人	5 人				
利用延数	9314 人	356 人	913 人	1822 人		4024 人		
稼働延日数	244 日	244 日	366 日	366 日	366 日	366 日	366 日	244 日
稼働率	95.5%	15%	83%	100%				
登録者数	83 人	2 人	1256 人	5 人	117 人		100 人	25 人
職員数	常勤 27 人 (管理者・サービス管理責任者含む) 非常勤 16 人				2 人	6 人	5 人	2 人
常勤換算数	30.7 人	1.2 人		3.2 人	1.8 人	6 人	3.8 人	2 人

5 年間行事 (法人全体研修・行事等を除く)

	研修	行事等
4 月	新人職員研修、身体介護研修	
5 月	身体介護研修	いぶき後援会総会
7 月	個別支援計画作成研修	
9 月	虐待防止研修、事例検討会	
10 月		すぎたから♡つな5 いぶきまつり
12 月		いぶき後援会チャリティーコンサート
3 月	個人情報保護研修 (相談部門)	
4~3 月	感染症防止研修	

6 主な会議等 (法人全体会議を除く)

会議名等	開催月	備考
職員会議	毎月第 3 土曜日	6・8・3 月はなし
役職会議	毎月第 2・4 木曜日	
磯子地域福祉部衛生委員会	毎月第 2 木曜日	
磯子地域福祉部虐待防止委員会	毎月第 2 火曜日	

7 ヒヤリハット・事故報告

年度	ヒヤリハットレポート件数	事故件数
2023 年度	184 件	1 件
2022 年度	260 件	1 件
2021 年度	338 件	0 件

事故報告・リスクマネジメント報告について

1 光友会で使用している事故報告の種類

(1) 行政（神奈川県、横浜市等）に提出する事故報告

障害者総合支援法及び児童福祉法に基づく施設又は事業所を対象にしたものです。事故の種類は大きく分けて8つ（死亡、骨折、誤嚥、食中毒、感染症、所在不明、利用者の不利益に繋がる職員による犯罪行為等、その他）の規定があります。

(2) 法人内のみで共有する事故報告

(1) には該当しないものの、事故として挙げる必要があると判断し、法人内で共有する形式の事故報告です。ここには職員の負傷や事務的な取り扱いのミスなども含まれます。

(3) 車両に関する事故報告

2 リスクマネジメント活動に関する取組みについて

(1) リスクマネジメント活動

この活動は、「ハインリッヒの法則（注1）」を根拠にしたもので、毎月全事業所のヒヤリハット（注2）の件数・数値評価と、事故件数の集約を行い、その結果を管理職全員に配信しています。

特にヒヤリハットで挙げた事象を分析することで、危険やミスを回避する「気付きの感度」を高める訓練となっています。そのため、ヒヤリハット報告は各事業所において積極的に挙げることを推奨しています（注3）。

(2) 事故内容の共有について

毎月開催する部長会議にて、事故内容の振り返りを行っています。特に行政に報告した事故については、当該事業所長から①事故概要、②事故後の対応、③防止策の3点を中心に報告を行い、再発防止につなげる活動を行いました。スローガンは「人の振り返り見て我が振り返せ」としています。

*注1：重大事故の裏に潜むヒヤリハットを把握する重要性を説いた法則のこと。

「1（重大事故）：29（軽微な事故）：300（ヒヤリハット）の法則」とも呼ばれます。

*注2：重大な災害や事故に直結する一歩手前の出来事のことを指します。思いがけない出来事に「ヒヤリ」としたり、事故寸前のミスに「ハッ」としたりすることが名前の由来です。ヒヤリハットは、事故や災害につながる要因を特定し対策する貴重な機会であり、リスクマネジメントの観点から多くの組織で重要視されています。

*注3：各事業所報告の数値実績欄にヒヤリハットレポート・事故報告（行政提出分）件数を表示していますので、ご参照ください。